

2021年3月期 第2四半期決算説明会

長瀬産業株式会社
2020年11月26日

本日のサマリー

■2021年3月期 第2四半期決算実績

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界経済が悪化し、特に自動車・化粧品関連市場に大きく影響
- 地域別では、グレーターチャイナは新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に回復してきているが、他地域の経済活動は低調に推移
- Prinovaグループが大きく利益貢献。一方、DX推進など持続的成長に向けた投資等により、費用増加
- 昨年に引き続き政策保有株式の売却を実施

■2021年3月期 通期業績見通し

- 新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大が依然として継続しており、本格的な回復基調へのシフトは、2021年度以降に持ち越されると想定
- 全体として、通期で減収減益見通し

■中期経営計画「ACE-2020」の進捗

- NAGASEグループとして推進するDXの一つである、マテリアルズ・インフォマティクス「TABRASA」をリリース
- サステナビリティ推進委員会を設置

目次

2021年3月期 第2四半期決算概況	P. 4
2021年3月期 通期業績見通し	P. 16
中期経営計画「 ACE-2020 」の進捗	P. 22
マテリアルズ・インフォマティクスについて	P. 28
(参考資料)セグメント別概況	P. 47

2021年3月期 第2四半期決算概況

- 売上高：新型コロナウイルス感染症拡大の影響等を受け、減収
- 営業利益：Prinovaグループの高い収益性が寄与し、売上総利益は増加したものの、持続的な成長への投資として位置付けているDX推進のための費用の増加等により、減益
- 親会社株主に帰属する四半期純利益：保有株式の売却に伴う利益を計上したこと等により、増益

(単位: 億円)

	19/09	20/09	増減額	前年同期比	通期見通し
売上高	3,919	3,811	△ 107	97%	7,540
売上総利益	508	537	+ 29	106%	1,070
<利益率>	13.0%	14.1%	+1.1%	—	14.2%
販売費及び一般管理費	402	448	+ 46	111%	920
営業利益	106	89	△ 16	84%	150
経常利益	105	96	△ 8	92%	155
親会社株主に帰属する四半期純利益	74	101	+ 27	137%	125
US\$レート (期中平均)	@ 108.6	@ 106.9	@ 1.7 円高		@106.0
RMBレート (期中平均)	@ 15.7	@ 15.3	@ 0.4 円高		@ 14.7

【為替変動による20/09期実績 売上高および営業利益への影響額】
 売上高：約△35億円 営業利益：約△1億円

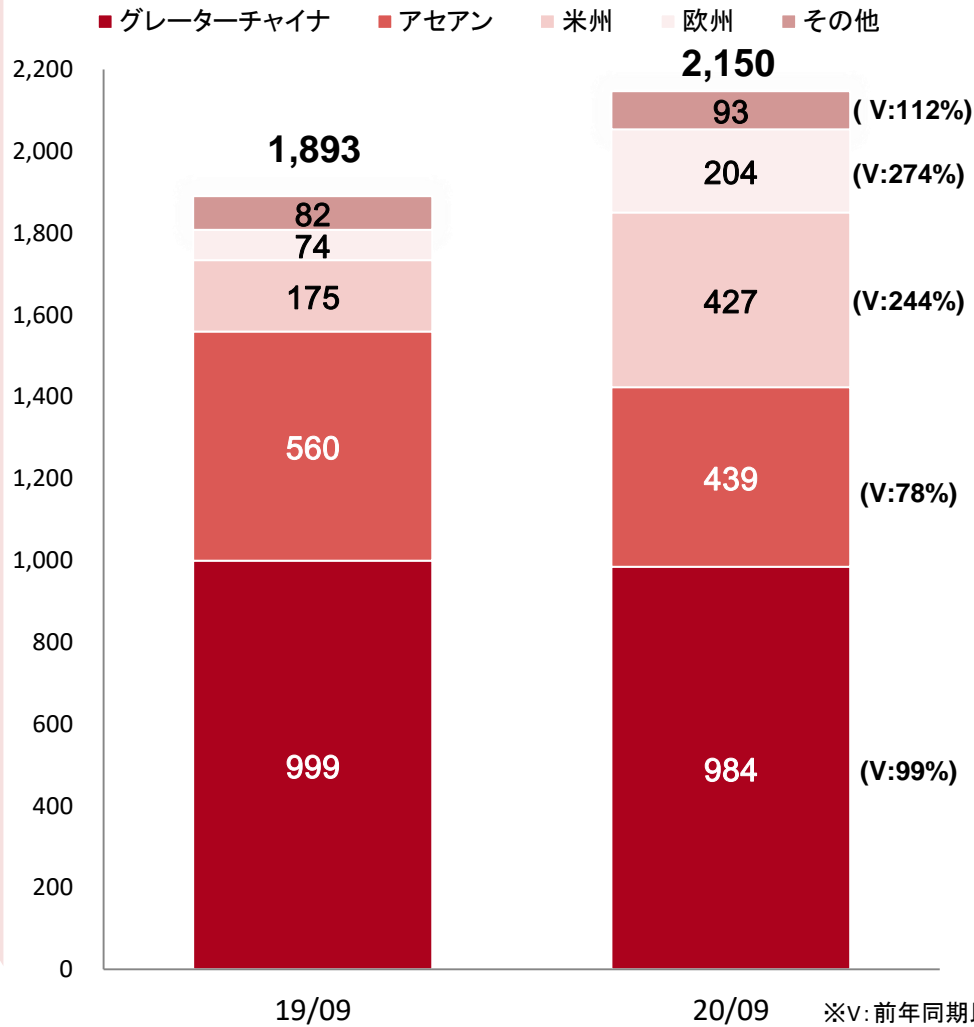
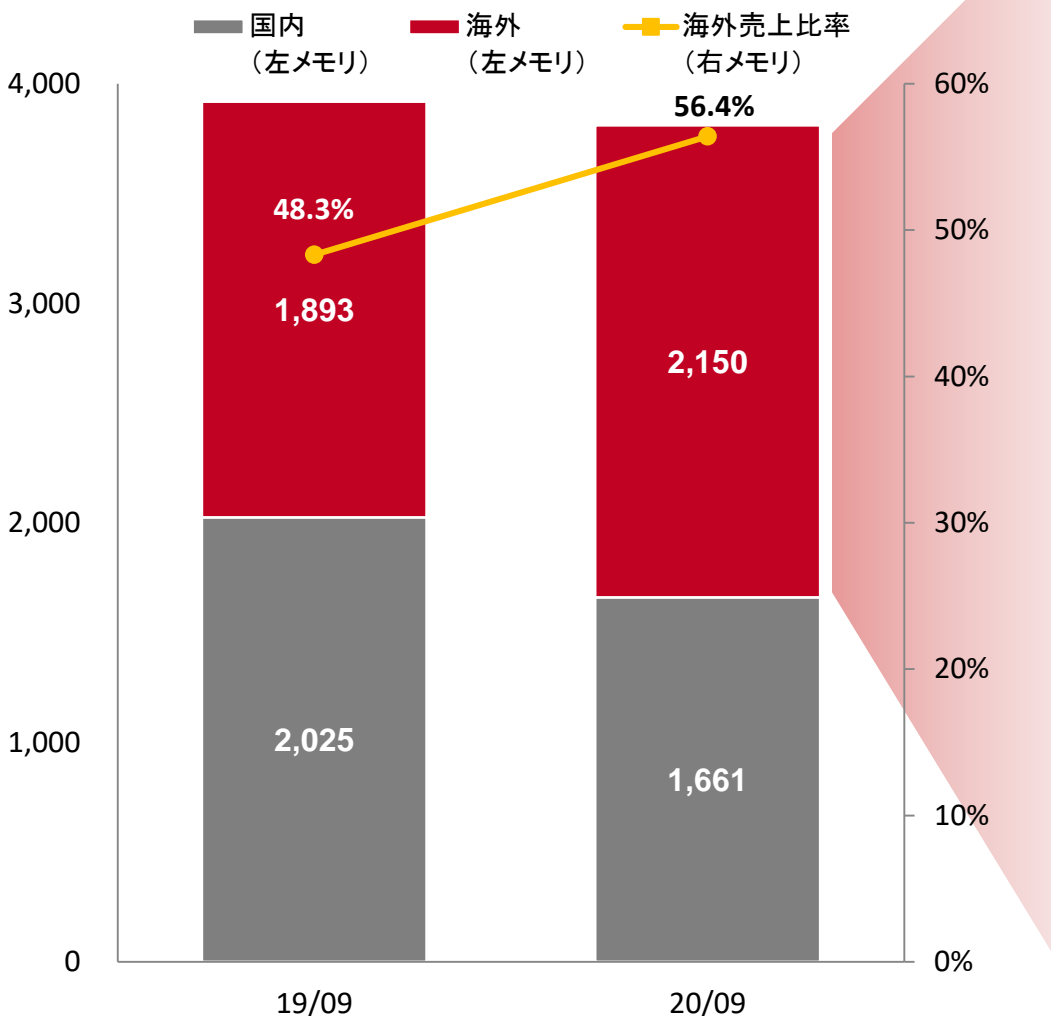
【1円変動当たり影響額(通期)】
 売上高 US\$：約10億円 営業利益 US\$：約0.0億円
 RMB：約81億円 RMB：約4.3億円

地域(国内・海外)別売上高

■新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、特に国内およびアセアンにおける売上が減少したものの、Prinovaグループの売上が加わったことにより、欧米地域の売上が大きく増加（海外売上比率56.4%）

国内・海外売上高(億円、%)

海外売上高の地域別内訳(億円、%)

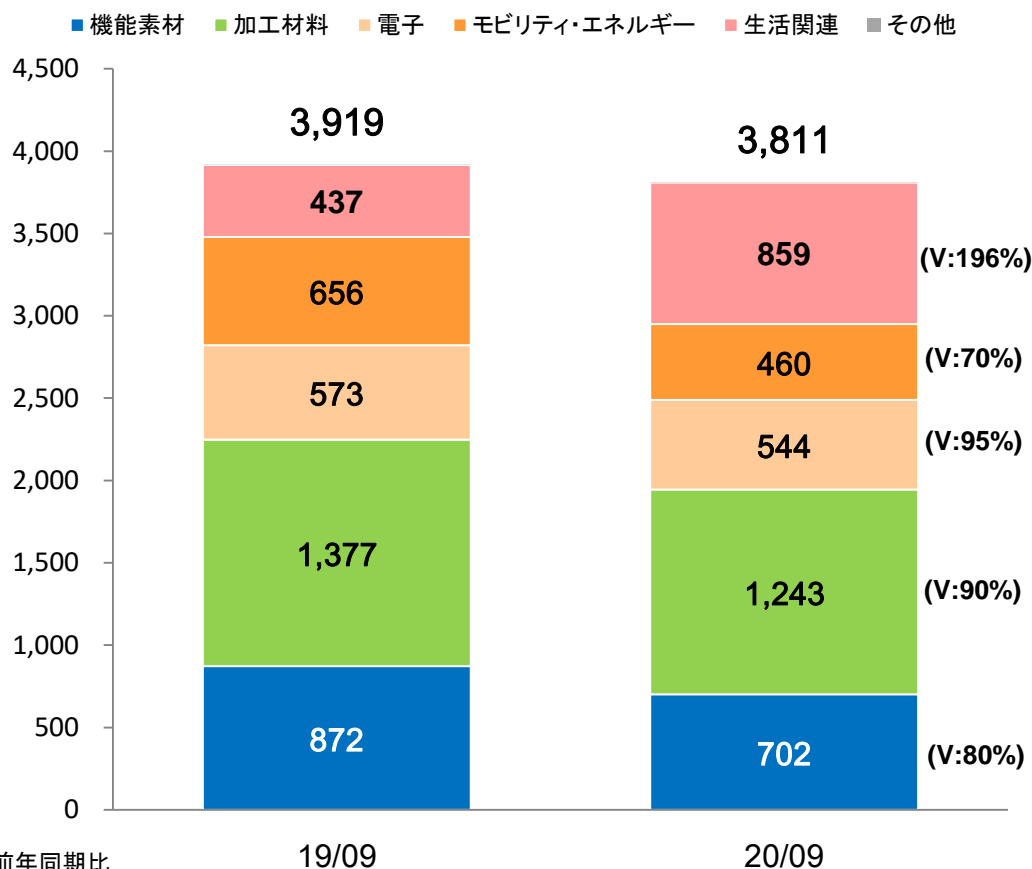


※V:前年同期比

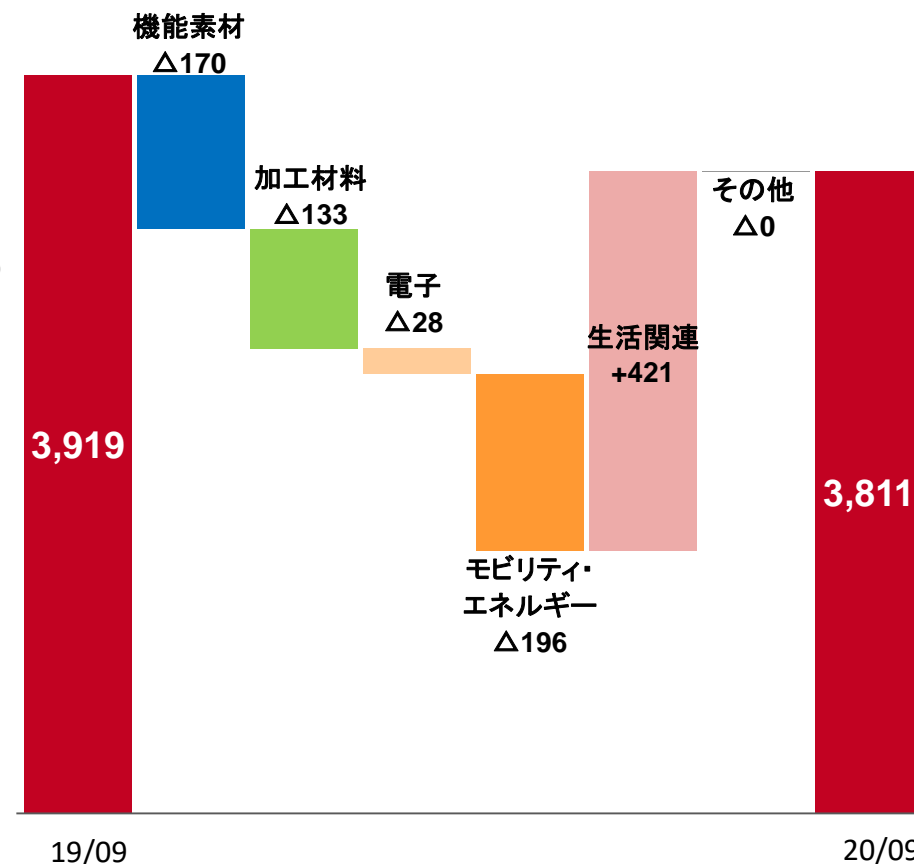
セグメント別売上高 2期比較

- モビリティ・エネルギー：グレーターチャイナを除く全地域の自動車生産台数の減少等により、国内におけるカーエレクトロニクス関連部材およびグレーターチャイナを除く全地域における樹脂ビジネスの売上が減少し、減収
- 生活関連：需要の減少等により、トレハ[®]等の食品素材(Prinovaグループ除く)やAA2G[®]等の化粧品関連素材の売上は減少したものの、医薬品原料・中間体・医用材料および衛生商品関連の売上が増加し、更にPrinovaグループの売上が加わったこと等により、増収

セグメント別 売上高 (億円)



セグメント別 売上高 増減 (億円)



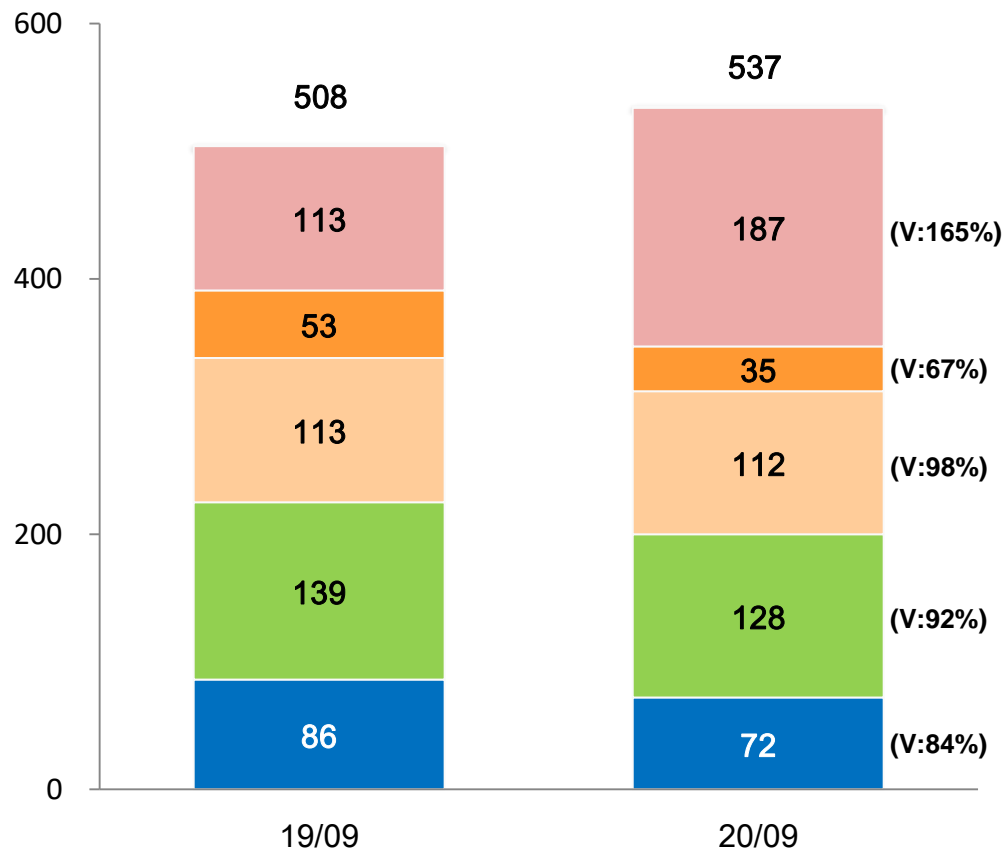
※V: 前年同期比

セグメント別売上総利益2期比較

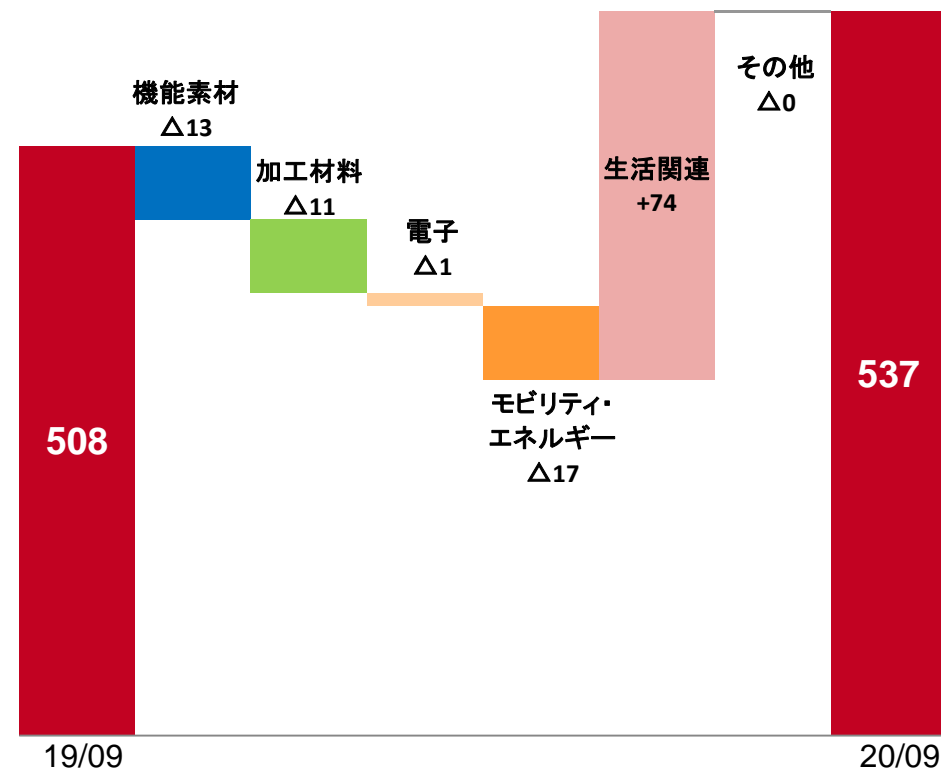
■減収による影響を、Prinovaグループの高い収益性が寄与し、増益

セグメント別 売上総利益 (億円)

■機能素材 ■加工材料 ■電子 ■モビリティ・エネルギー ■生活関連 ■その他



セグメント別 売上総利益 増減 (億円)

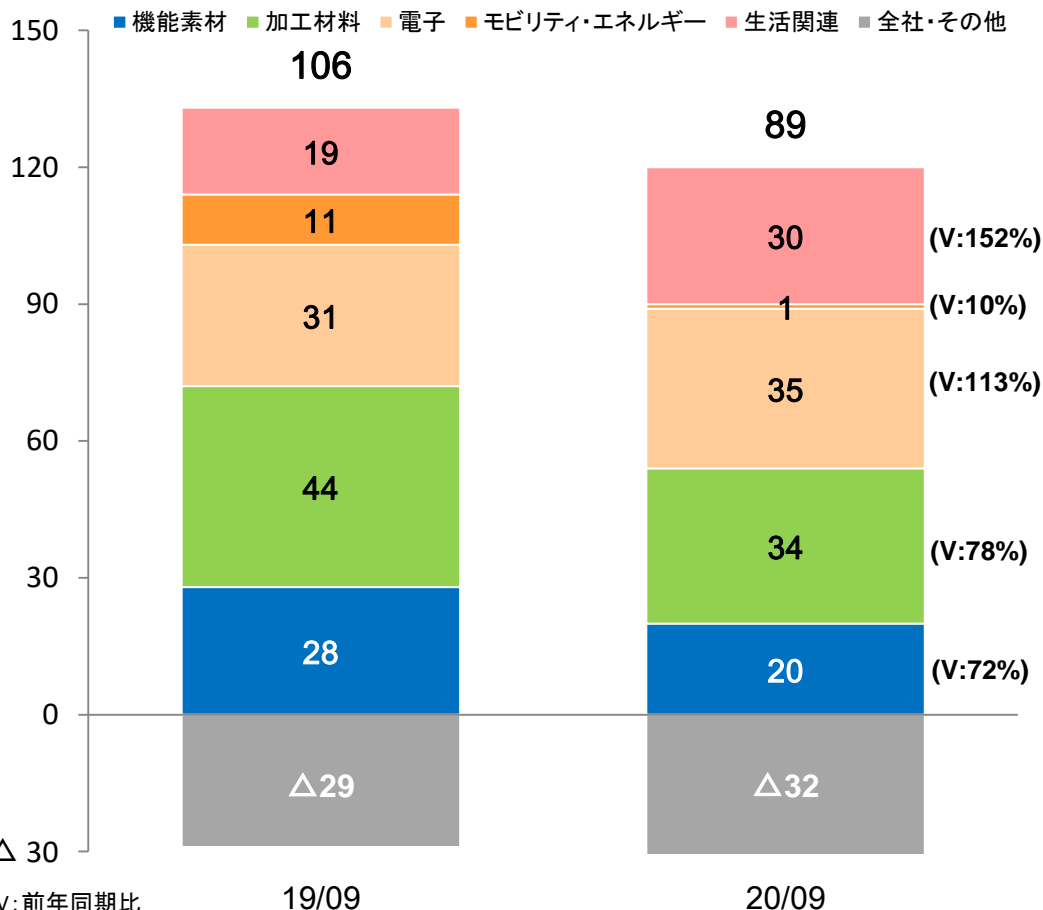


※V: 前年同期比

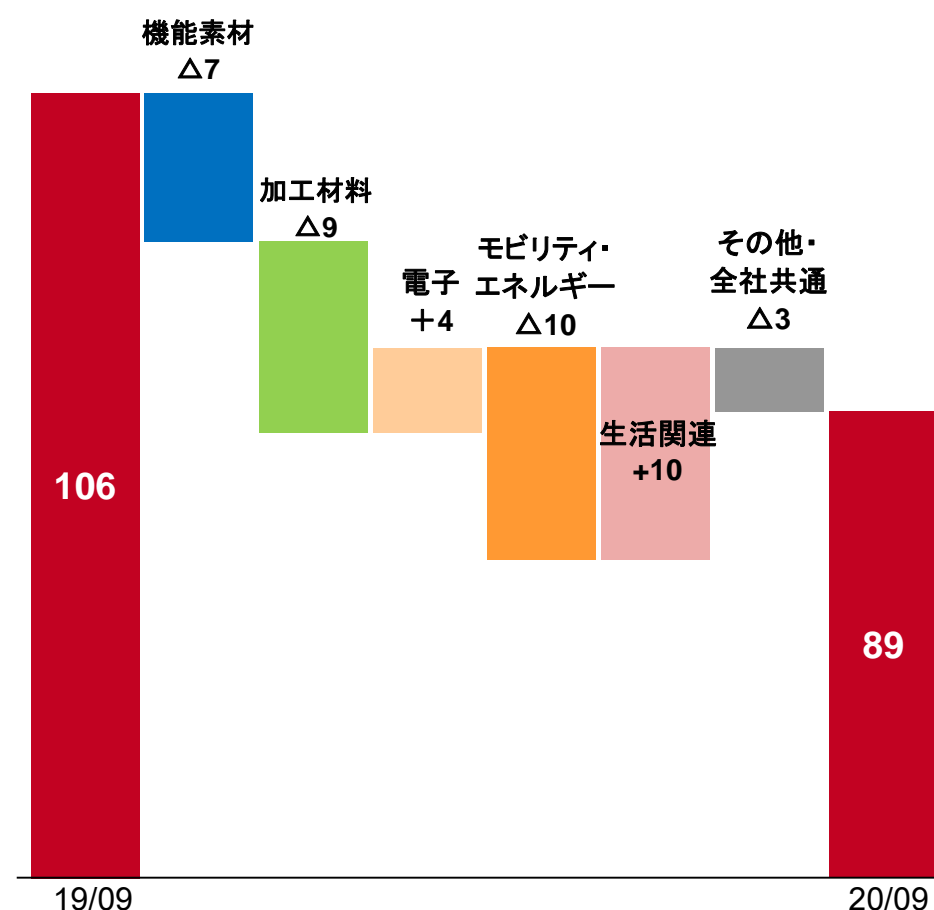
セグメント別営業利益 2期比較

- 加工材料：減収に加え、情報印刷関連材料ビジネスの市況下落による収益性悪化の影響等により、減益
- 電子：減収となったものの、一部の製造子会社の収益性の改善等により、増益

セグメント別 営業利益 (億円)



セグメント別 営業利益 増減 (億円)



※V: 前年同期比

主な連結子会社の業績

- ナガセプラステックスは、新型コロナウイルス感染症の影響等を受け、OA・電子業界向け樹脂販売等が減少し、減収減益
- 上海長瀬貿易有限公司は、グレーターチャイナ全体として新型コロナウイルス感染症の影響を早期に脱し、半導体を中心とした電子関連ビジネス等が好調に推移し、増収増益

(単位:億円)

社名		売上高	前年同期比	営業利益 ^(注2)	前年同期比
製造会社	林原	114	89%	21	80%
	ナガセケムテックス	120	92%	14	108%
	製造会社計 ^(注1)	466	89%	45	77%
国内販売会社	ナガセプラステックス	151	80%	3	56%
	ナガセケミカル	77	80%	1	77%
	西日本長瀬	25	60%	0	45%
	国内販売会社計 ^(注1)	376	80%	10	71%
海外販売会社	Prinova Group, LLC	444	-	25	-
	上海長瀬貿易有限公司	218	101%	6	187%
	上海華長貿易有限公司	192	97%	6	120%
	海外販売会社計 ^(注1)	2,128	115%	66	169%

※(注1) 各カテゴリの合計は、対象会社の単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません。

※(注2) 営業利益は、のれん及び技術資産等の償却前の数値となります。

主要製造子会社2社の状況

- 林原：医療・健康食品業界向けプルランや食品業界向け高機能素材ファイバリクサ®の売上は増加したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、食品業界向けトレハ®や香粧品業界向けAA2G®の売上が国内外で減少し、減収減益
- ナガセケムテックス：新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、特に機能化学品事業の売上が減少し減収となったものの、営業利益は、プロダクトミックスの改善およびコストの削減等により、増益

林原

(単位:億円)

	19/09	20/09	増減額	前年同期比
売上高	129	114	△14	89%
営業利益	26	21	△5	80%

- ・トレハ®は、巣ごもり需要の増加により、一部食品向けに堅調に推移したものの、土産品・外食産業向け需要が減少し、全体として低調
- ・AA2G®は、香粧品業界における需要が減少し、低調に推移
- ・ファイバリクサ®が食品業界向けに新規採用が進み、堅調
- ・医療・健康食品用ハードカプセル向けにプルランの売上が堅調
⇒9月に新棟が竣工し、製造キャパシティを増強

ナガセケムテックス

(単位:億円)

	19/09	20/09	増減額	前年同期比
売上高	131	120	△10	92%
営業利益	13	14	+1	108%

- ・エポキシ樹脂事業は、自動車を中心とした弱電向けは低調に推移したものの、モバイル機器電子部品向けが好調に推移
- ・フトリソ材料事業は、新型コロナウイルス感染症の影響で一時的に稼働率が低下するものの徐々に回復
- ・機能化学品事業は、自動車用途エピクロ誘導体やLCD業界向け導電材料ビジネスが低調に推移
- ・生化学品事業は、堅調に推移
- ・利益については、プロダクトミックスの改善およびコスト削減等により増益

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、スポーツニュートリション市場向けArmada事業が低調に推移したものの、ビタミン等の食品素材の販売が増加し、全体として好調に推移

	2021年3月期 第2四半期 (1~6月業績)	※参考 2019年12月期(通期) (M&A関連特殊経費除く)
Prinovaグループ売上高	444億円	約820億円
Prinovaグループ営業利益	25億円	約40億円
のれん等の無形資産償却額	9億円	(参考) 2020年3月期は、5か月間連結 償却額 8億円

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による、健康維持志向の上昇および市況の回復等もあり、ビタミン等の食品素材関連の売上が増加するなど、Ingredients Distribution事業およびSolution事業(配合・加工)が好調に推移
- ・一方、Armada事業(受託製造)は、新型コロナウイルス感染症の影響によるスポーツジムの閉鎖やスポーツイベントの中止等により需要が減少し、低調に推移

連結貸借対照表

■現預金および売掛金の減少等により、資産は93億円減少

■コマーシャルペーパーおよび買掛金の減少等により、負債は265億円減少

■自己資本比率は、3.7ポイント増加し、53.6%

資産

	20/03	20/09	増減額
流動資産	3,793	3,540	△ 252
現金・預金	514	378	△ 135
受取手形・売掛金	2,211	2,094	△ 116
たな卸資産	956	949	△ 7
その他	111	117	+ 6
固定資産	2,321	2,480	+ 159
有形固定資産	743	756	+ 13
無形固定資産	725	690	△ 35
投資・その他の資産合計	852	1,034	+ 181
投資有価証券	761	941	+ 180
その他	91	92	+ 1
資産合計	6,114	6,021	△ 93

負債及び純資産

(単位: 億円)

	20/03	20/09	増減額
流動負債	2,004	1,715	△ 289
支払手形・買掛金	1,082	984	△ 98
借入金・CP・1年内償還予定の社債	618	444	△ 174
その他	302	286	△ 16
固定負債	978	1,002	+ 24
長期借入金・社債	726	694	△ 32
退職給付に係る負債	136	139	+ 2
その他(繰延税金負債等)	115	168	+ 53
負債合計	2,982	2,717	△ 265
純資産	3,132	3,304	+ 171
株主資本	2,723	2,798	+ 74
その他の包括利益累計額	329	426	+ 96
その他有価証券評価差額金	326	435	+ 109
為替換算調整勘定	10	△ 4	△ 15
その他	△ 6	△ 4	+ 2
非支配株主持分	79	79	+ 0
負債及び純資産合計	6,114	6,021	△ 93

キャッシュ・フローの状況

(単位:億円)

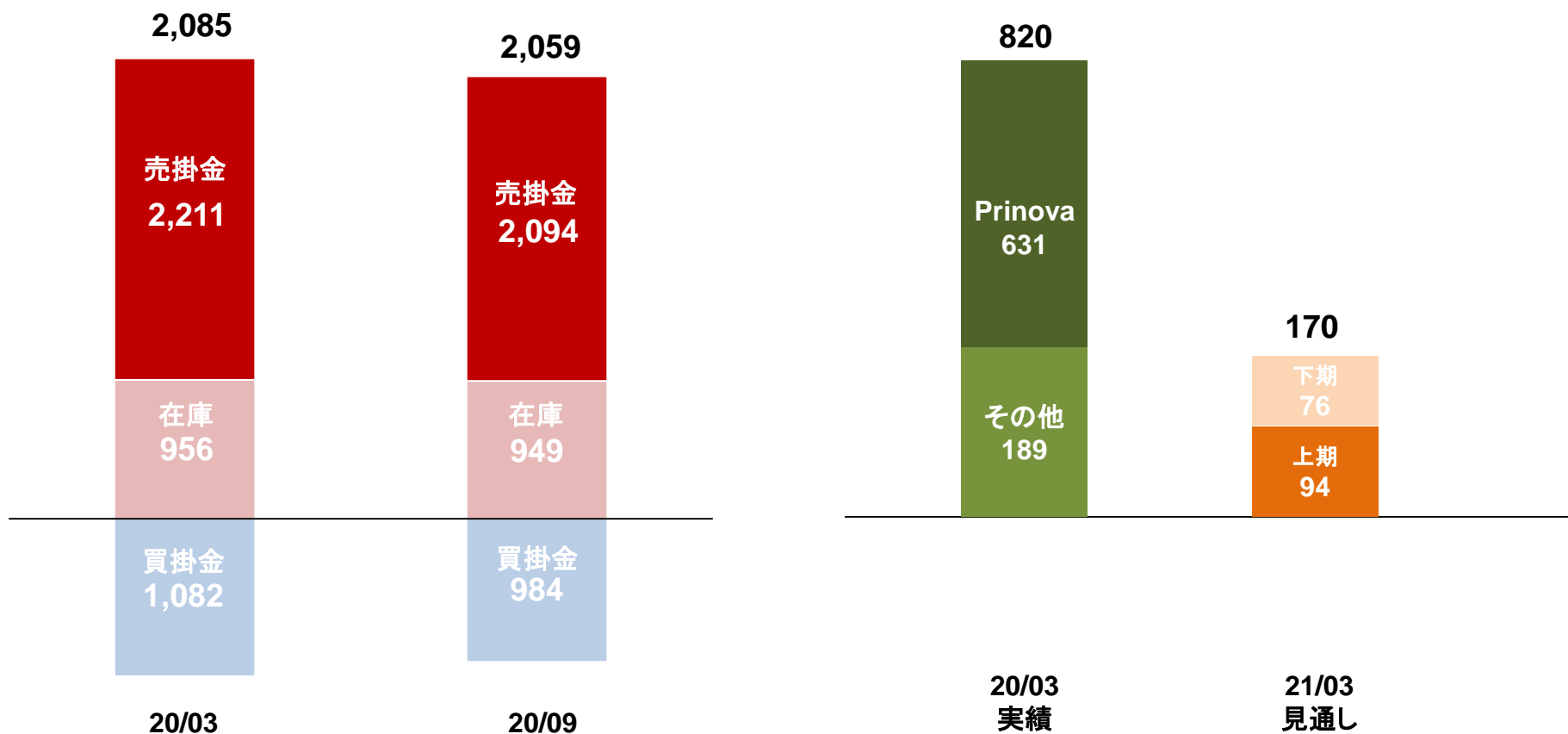
	20/09	主な内訳	19/09
営業活動によるキャッシュ・フロー	132	税金等調整前四半期純利益 +151 減価償却費・のれん償却 +66 運転資金の増減 +22 法人税等の支払 ▲53	124
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 25	有形・無形固定資産の取得による支出 ▲55 投資有価証券の取得による支出 ▲30 投資有価証券の売却による収入 +57	▲ 478
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 236	コマーシャル・ペーパーの減少 ▲200 短期借入金の減少 ▲38 配当金の支払 ▲27	394
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 4		▲ 23
現金及び現金同等物の増加額(▲減少額)	▲ 134		17
現金及び現金同等物の期首残高	504		440
現金及び現金同等物の四半期末残高	370		457

運転資金および投資額について

- 運転資金: 在庫の徹底管理を継続実施、在庫減少傾向
- 投資: 主に注力領域として掲げるライフ&ヘルスケアおよびエレクトロニクスに関連する投資を実施
林原において酵素・プルランを製造するP棟が9月に竣工

運転資金 (億円)

投資額 (億円)



2021年3月期 通期業績見通し

2021年3月期 業績見通し

- 上期は、グレーターチャイナにおける想定より早い経済活動の再開、新型コロナウイルス感染症の拡大による供給不安を受けた一時的な需要拡大等を背景として、公表業績見通しに対し、比較的順調に推移
- 新型コロナウイルス感染症の拡大が依然として続いている状況に鑑み、本格的な回復基調へのシフトは2021年度以降と想定
⇒ 下期のマクロ環境を保守的に想定
- 更に、下期において中長期的な持続的成長に向けた投資等による費用が上期と比較し増加することを見込む
- 以上の結果、全体としては減収減益の見通し（2020年5月公表の業績見通しから変更無し）

(単位:億円)

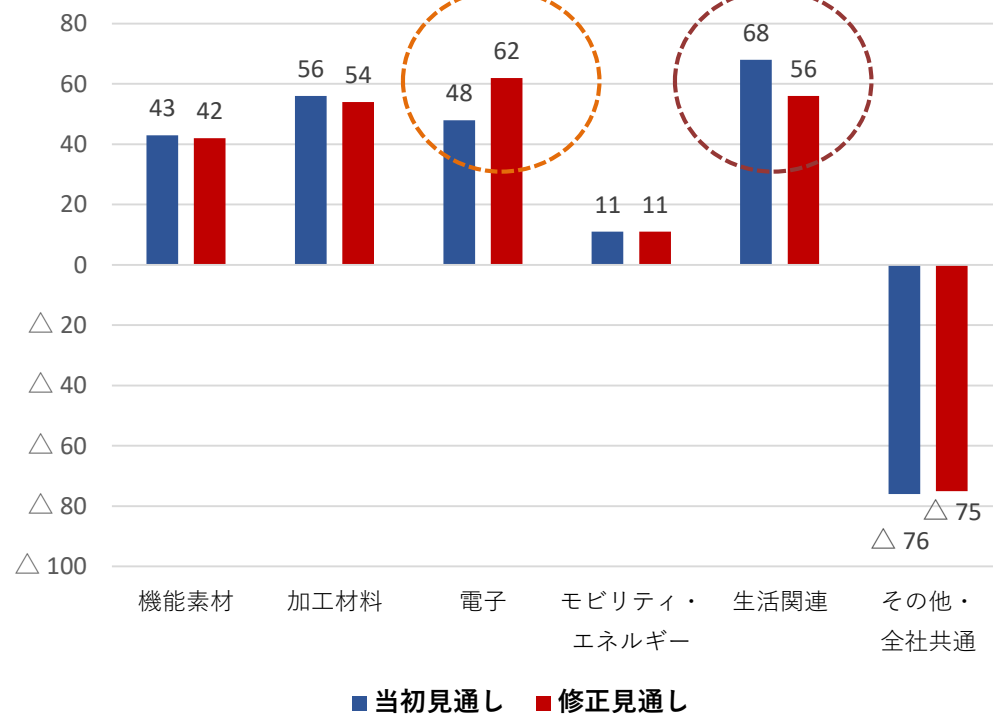
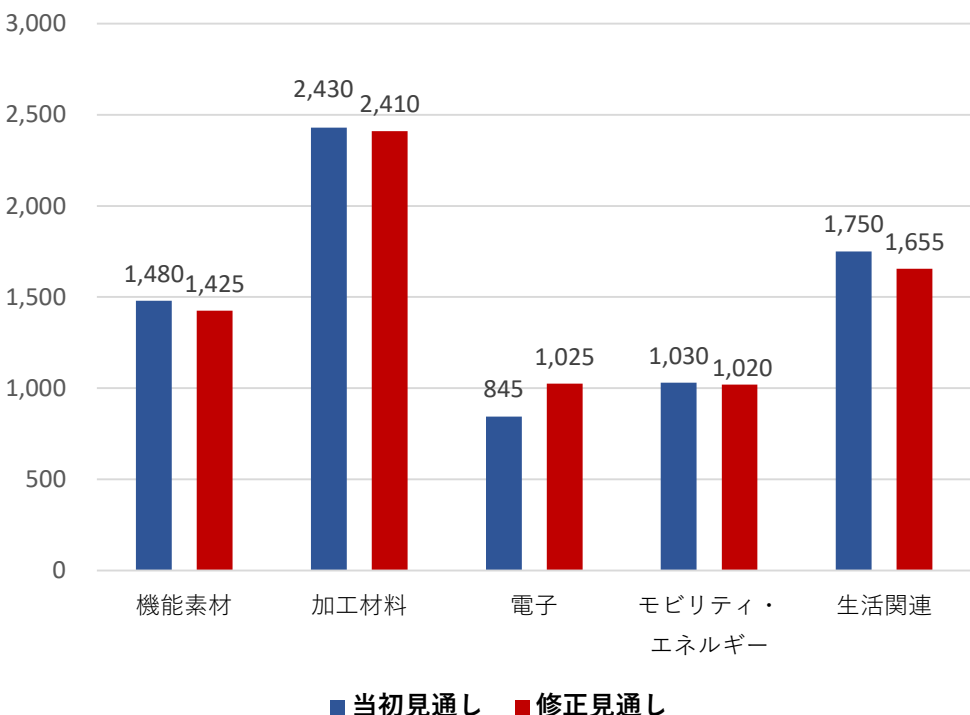
	20/03実績	21/03見通し	増減額	前期比
売上高	7,995	7,540	△455	94%
売上総利益	1,049	1,070	+21	102%
<利益率>	13.1%	14.2%	+1.1%	—
販売費及び一般管理費	857	920	+63	107%
営業利益	191	150	△41	78%
経常利益	190	155	△35	81%
親会社株主に帰属する当期純利益	151	125	△26	83%
US\$レート (期中平均)	@108.7	@106.0	@2.7円高	—
RMBレート (期中平均)	@15.6	@14.7	@0.9円高	—

セグメント別業績見通しを修正

- 各セグメントにおいて当初想定していた市場の景況感と足元の状況に差異がある為、各セグメントの業績見通しを修正
- 自動車関連は想定していた通り、上期厳しい状況だったが、想定以上に電子関連の市場が好調に推移一方で香粧品など生活関連の市場が低迷

セグメント別 売上高見通し(億円)

各セグメント 営業利益見通し(億円)



電子 当社を取り巻く環境において、想定以上にノートブック・TV等の需要が増加し、加えて半導体市場が堅調に推移

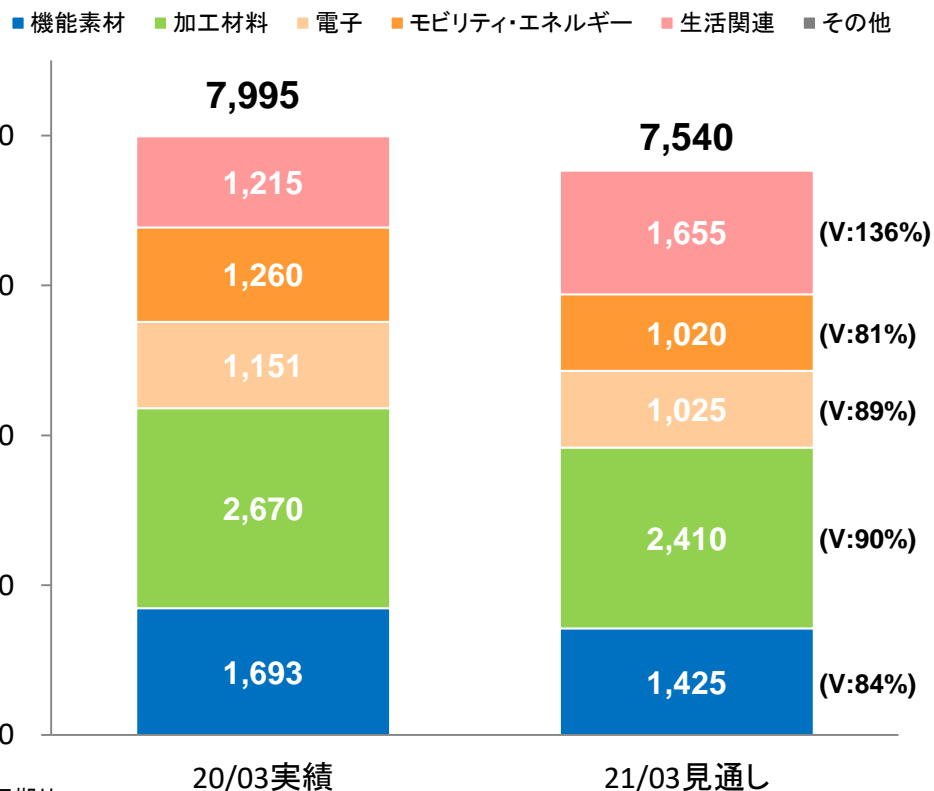
生活関連 人の移動が制限され、インバウンド需要が減少し、想定以上に土産物や香粧品の需要が減少

※「その他」の売上高は、見直しに変更はありません。

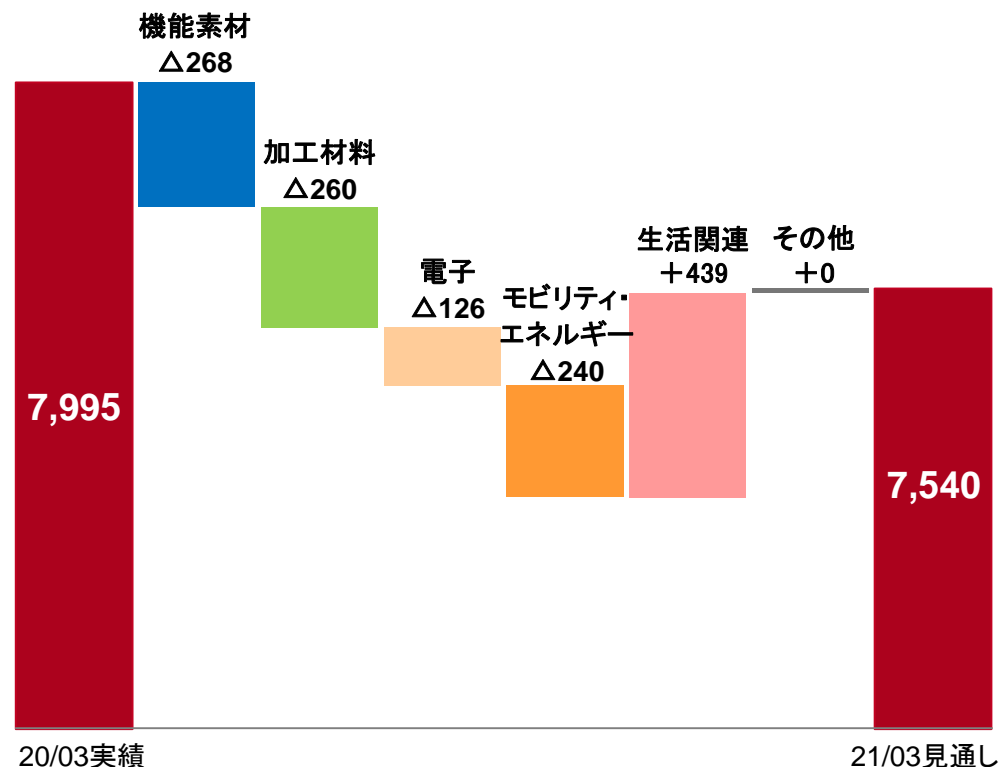
セグメント別売上高見通し

- 機能素材: 下期、自動車生産台数の回復等により、徐々に塗料・ウレタン原料の販売が回復し、上期比増収となるものの、通期では減収見通し
- 電子: モバイル機器・重電向けなど変性エポキシ樹脂は上期並みに推移するものの、市場の先行不透明な状況に鑑み、ディスプレイ関連部材の販売が減少することを見込んでおり、下期は上期比減収となり、通期で減収見通し
- 生活関連: 下期、引き続き香粧品市場向けAA2G®や食品市場向けトレハ®が低調に推移し、上期比減収を見込むものの、Prinovaグループ連結が大きく寄与し、通期で増収見通し

セグメント別 売上高 (億円)



セグメント別 売上高 増減 (億円)



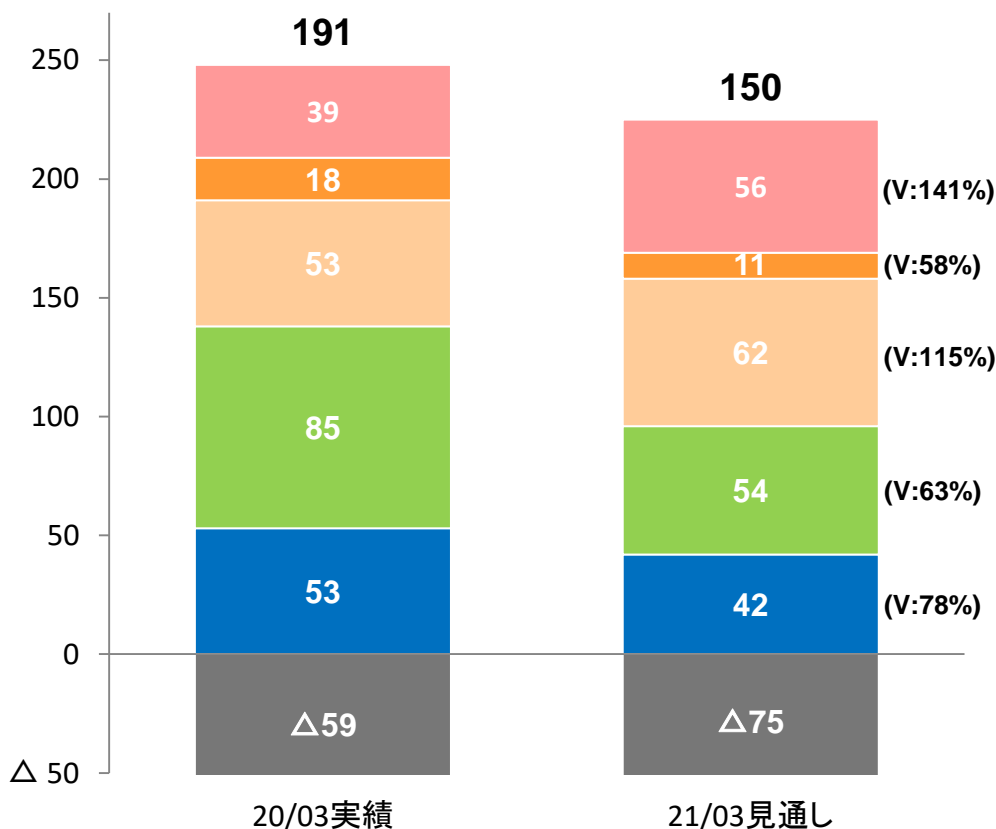
※V: 前年同期比

セグメント別営業利益見通し

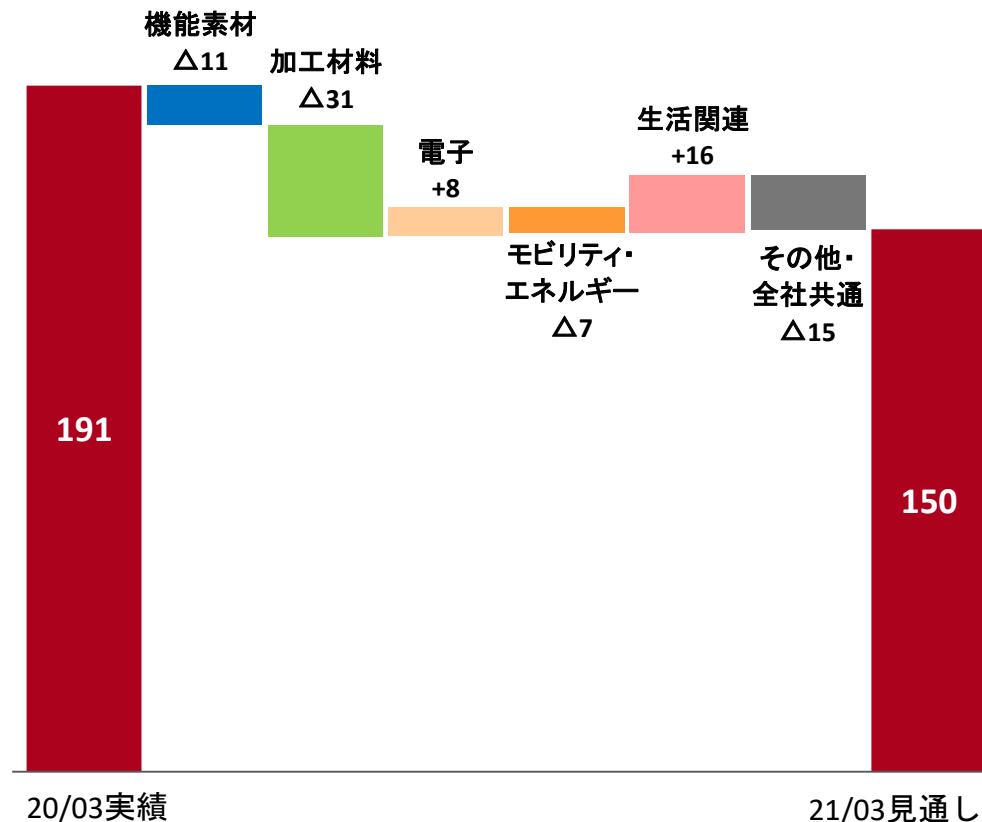
- 加工材料：減収に加え、情報印刷関連材料の市況下落による収益性悪化等により、減益
- 生活関連：Prinovaグループが通期で寄与すること等により、増益
- その他・全社共通：中長期的な成長に向けたDXの推進や、先端技術への投資の加速により、費用増加

セグメント別 営業利益 (億円)

■機能素材 ■加工材料 ■電子 ■モビリティ・エネルギー ■生活関連 ■その他・全社共通

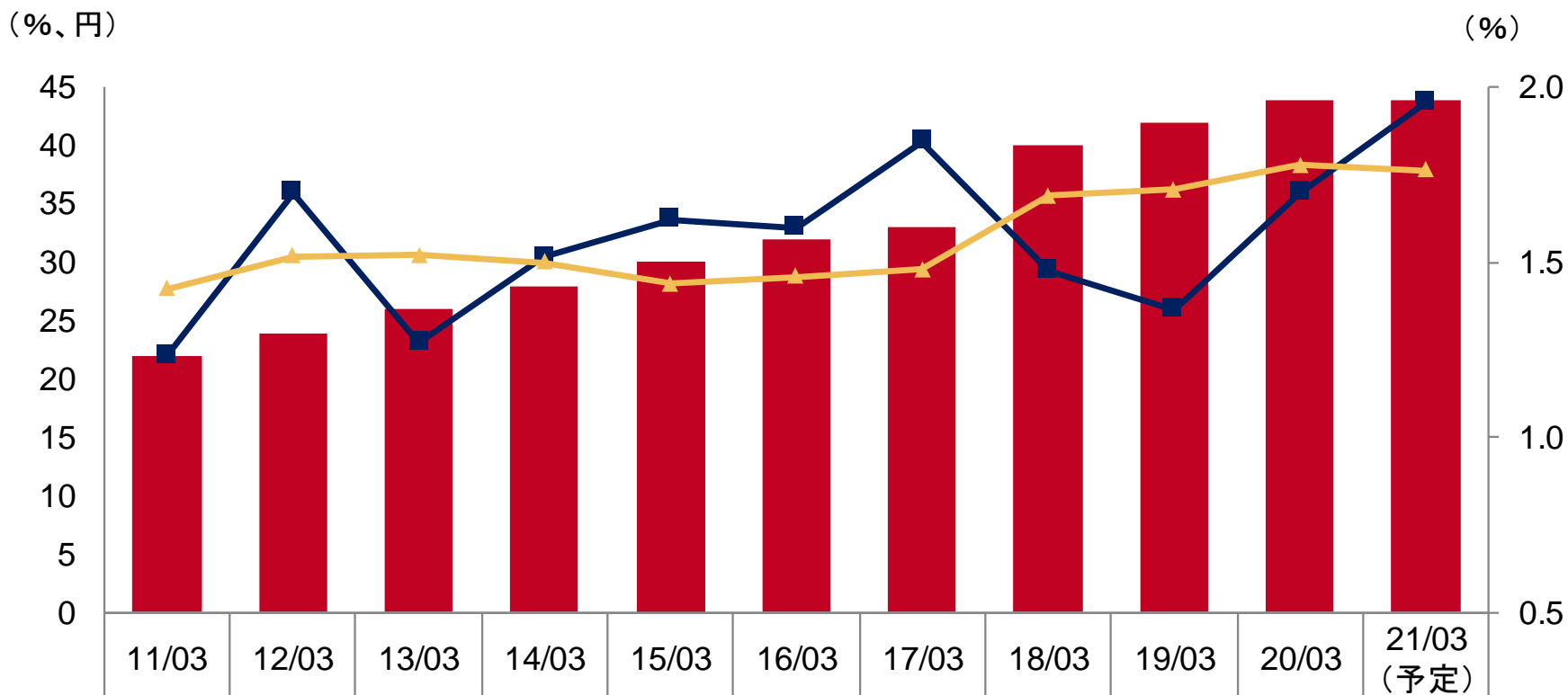


セグメント別 営業利益 増減 (億円)



※V: 前年同期比

■ 中間配当金22円、期末配当金22円の年間配当金44円を予定



※1 18/03期の配当金には、特別配当金5円を含んでおります。

※2 21/03期の期末配当金は、2021年6月開催予定の第106回定時株主総会に附議予定です。

中期経営計画「ACE-2020」の進捗

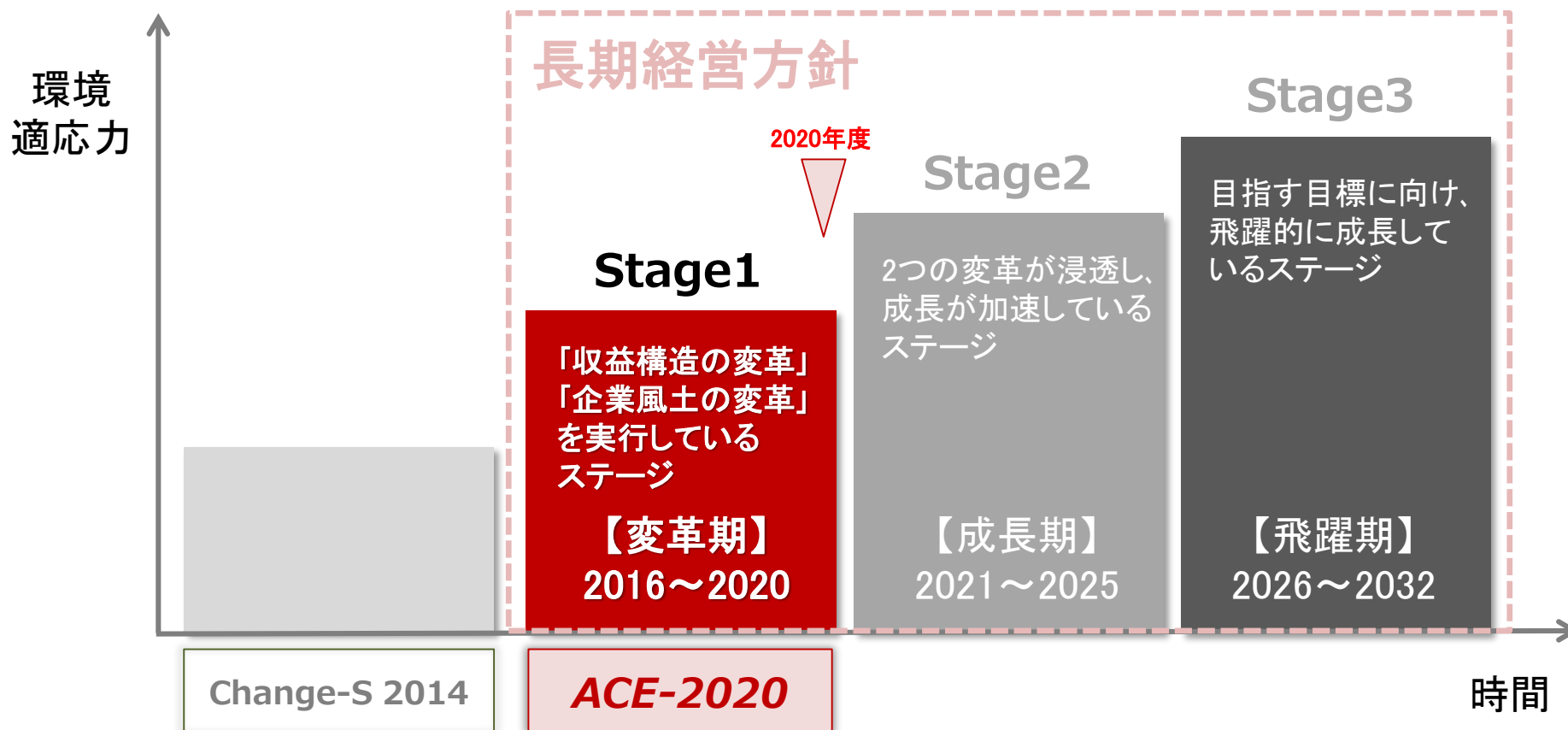
Accountability(主体性)・ Commitment (必達)・ Efficiency(効率性)



商社からビジネスをデザインするNAGASEへ

長期経営方針の最終年度にあたる2032年までに、我々が目指す目標*を実現するために、この17年間で3つの Stageに分け、Stage1として中期経営計画「**ACE-2020**」をスタートしました。2020年度は「**ACE-2020**」の最終年度として、引き続き、飛躍的な成長に向けて変革を進めてまいります。

* 目指す目標「現行(2014年度)比3倍の利益水準を常態化」



商社からビジネスをデザインするNAGASEへ

商社中心の考え方から、商社をグループの機能のひとつと考え、グループ一丸となって世界へ新たな価値を創造・提供するNAGASEを目指します

グループの持つ機能を最大限活用し、定量・定性目標を必達

収益構造の変革

ポートフォリオの最適化

事業の仕分けと領域にあった戦略の実行

資産入替と資源の再配分

全社規模の投資加速

収益基盤の拡大・強化

グローバル展開の加速 “G6000”

製造業の収益力向上

企業風土の変革

マインドセットの徹底

主体性と責任感の醸成

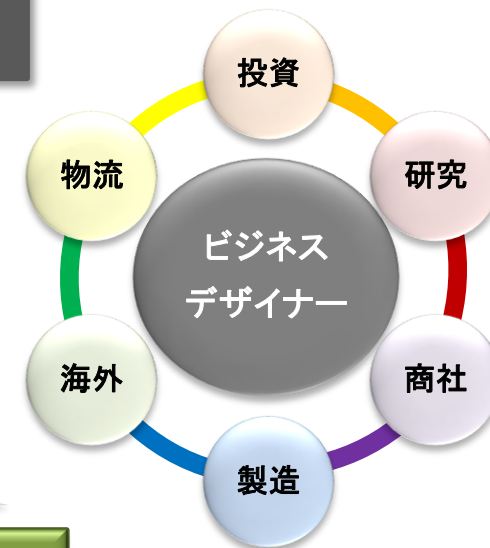
トップメッセージの共有化

モニタリングとPDCAの徹底

経営基盤の強化

効率性の追求

人財育成



【6つの機能】

中期経営計画「ACE-2020」のKGI進捗

売上高/営業利益

1兆円/300億円以上

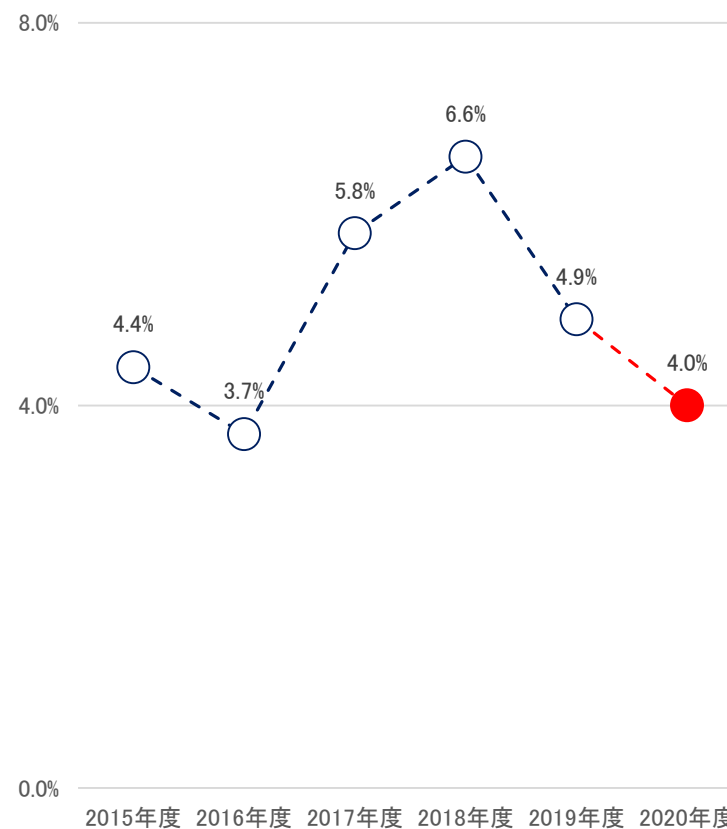
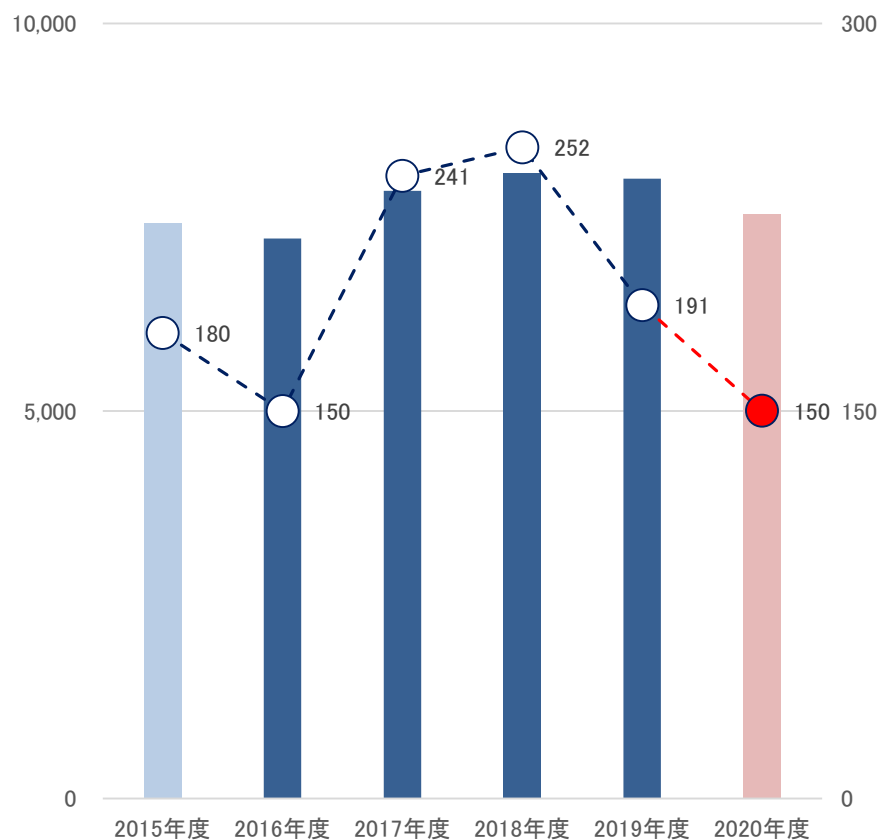
ROE

6%以上

売上高(億円)

営業利益(億円)

ROE (%)



収益構造の変革

注力領域

- シンガポールに食品素材ラボ Regional Innovation Centerを設立
中国・廈門に続き海外2例目 食品素材分野の海外展開加速
- Prinova社、EMERALD KALAMA CHEMICAL社の販売パートナーに指名
東南アジア地域におけるフレーバーおよびフレグランス原料販売の拡大

育成領域

- 新材料探索プラットフォーム「TABRASA(タブラサ)」のSaaSサービス提供を開始
アナリティクスとコグニティブを搭載し、新素材をより効率的に探索する
- Karydo TherapeutiX 社との業務提携、AIを活用し効果や副作用を高精度で予測
COVID19治療薬候補のAI解析データを産学官を問わず無償で提供
- ユニチカ社と共同提案の分離膜プロセスがNEDOの助成事業に採択
有機溶剤の再利用工程におけるエネルギーコストを100分の1以下に低減
- 経済産業省「ゼロエミ・チャレンジ企業」に選定
バイオ由来製品生産技術、生物を用いた高機能品生産技術の開発

基盤領域

- 「化学品外注コーディネート」ページ開設、
および「消泡剤ソリューション」を提案する顧客オンライン・プラットフォームを開設



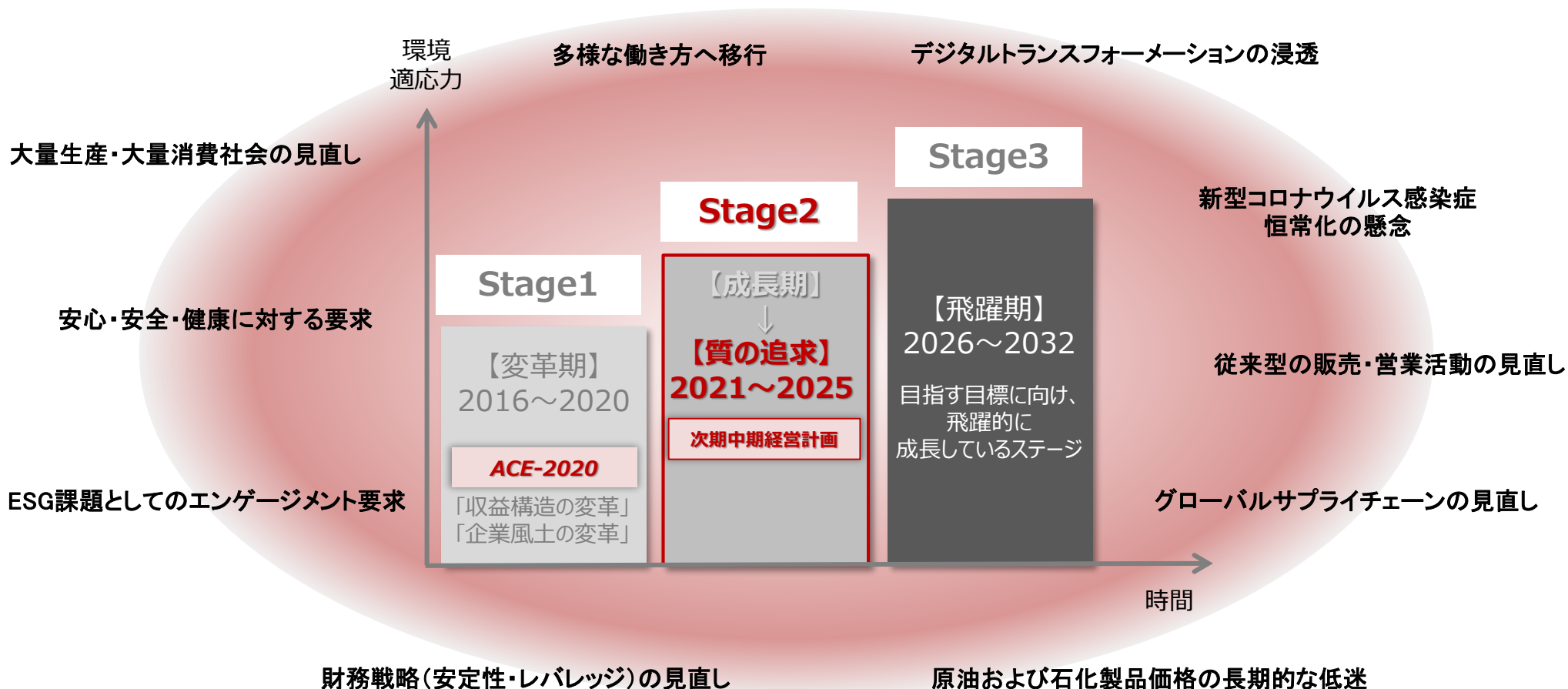
企業風土の変革

- サステナビリティ推進委員会を設置
- 長瀬産業公式ソーシャルメディアアカウント開設 (Twitter、Facebook)

次期中期経営計画の位置づけの変更：「成長期」から「質の追求」へ

Stage1の最終年度を迎え、**急激な外部環境の変化**を認識したこともあり、Stage2の位置づけを「成長期」から「質の追求」へと変更しました。

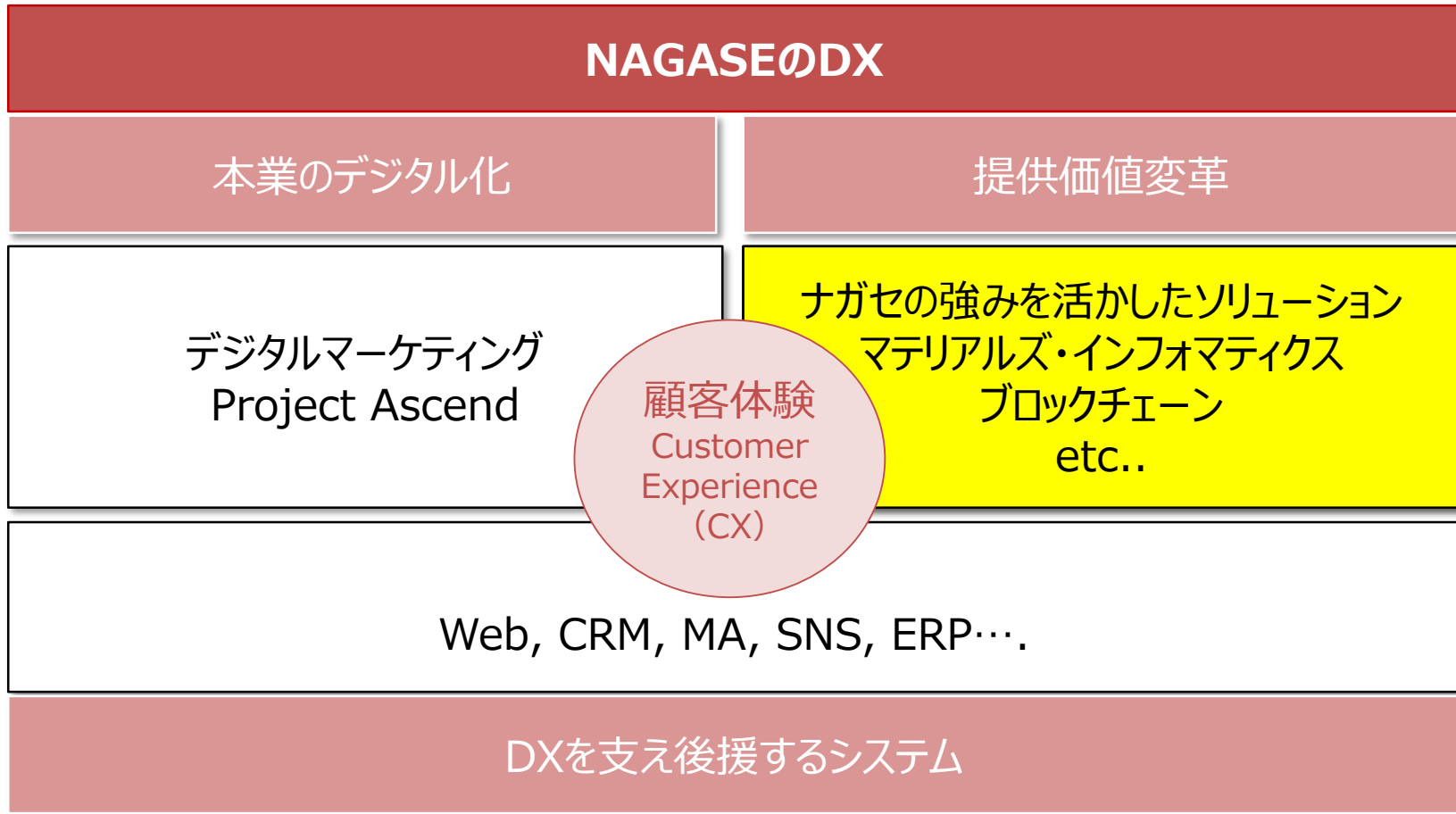
2032年に向けてステークホルダーに提供したい価値を具体的な“形”（事業・仕組み・風土）として創出する期間と位置づけ、**社会・環境価値の向上、先端技術の活用、資本効率性の改善**を軸とする計画の策定を進めています。



マテリアルズ・インフォマティクス SaaS サービスについて

執行役員 NVC室長
工学博士

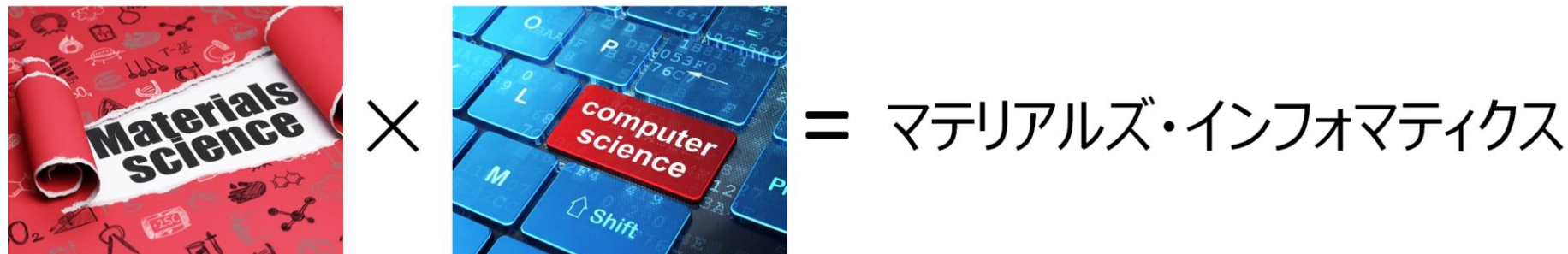
折井 靖光



NVC室

2017年4月1日設立

最先端のデータ処理技術と材料科学を融合した材料開発技術



研究開発の期間を大幅に短縮する技術として注目されているが、開発コストや専門人材の確保が課題



NAGASE マテリアルズ・インフォマティクスは、ユーザが初期投資をすることなく、ランニングコストのみで最先端のM I サービスが利用できる。



産業界標準の研究開発プラットフォームとしてお客様の価値創造に貢献

known material 1,000,000,000

10^9

unknown material

10^{62}

Reference : Kirkpatrick R.S, C.McMartin W.C Guida Chemical Space,
Nature.432(7019):823-865, 2004
日本アイ・ビー・エム 東京基礎研究所 武田氏作成

サービス開始(11/18)

2016

2017

2018

2019

2020

2021

IBM Research Frontiers Institute



長瀬産業参画

RFI設立メンバー：当社の他、キャノン、Samsung Electronics、JSR、日立金属、本田技術研究所の計6社。

10の開発テーマの中の1つである**新材料探索 (Accelerated Material Discovery)**についてIBMとJDAを締結。

Joint Development Agreement (JDA)

SaaS システム構築

Phase1

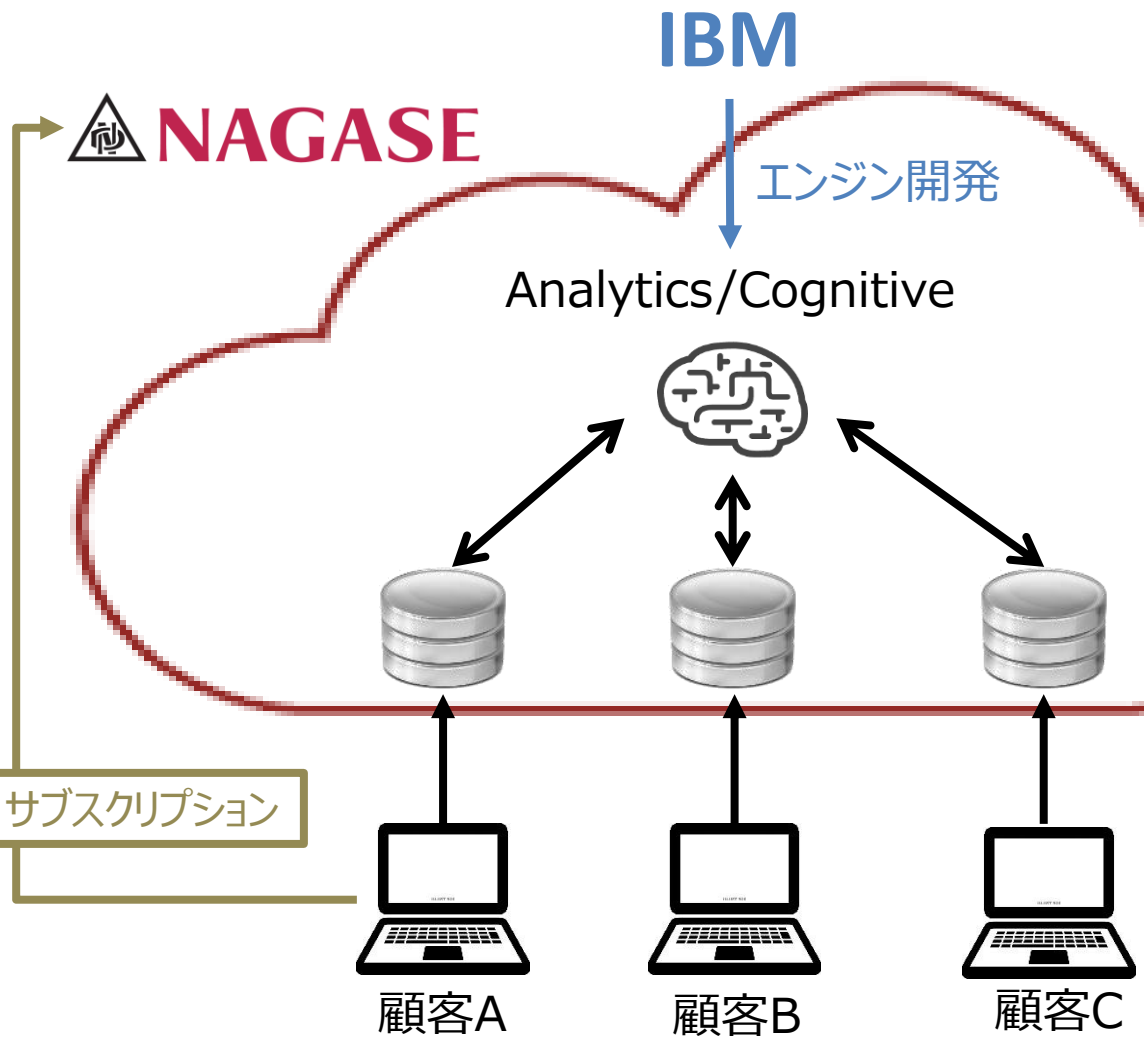
Phase2

Phase3

	2019年 (1-12月)	2020年 (1-12月)	2021年 (1-12月)
概要	システム開発 林原 ナガセケムテックス	システム開発 林原 ナガセケムテックス	予測モデル開発

SaaS (Software as a Service) というビジネスモデル

SaaSというビジネス形態は、事業者側が高水準なサービスを提供し続けられれば、顧客・事業者側双方向にとってメリットが生まれるビジネスモデルになりえる。



顧客メリット

IBMがエンジンを開発
顧客は最先端の技術を楽しみ続けられる

クラウド上の Software
顧客の重要なデータを我々に開示することなく、顧客が自ら設計することが可能。

グラフィカル・ユーザー・インターフェース搭載
データサイエンティストの採用など莫大な投資を伴わずにMIを開始可能

SaaSによりサブスクリプションで利用
大規模なシステム投資が不要

長瀬産業としては

継続的な収入が見込め事業収益が安定

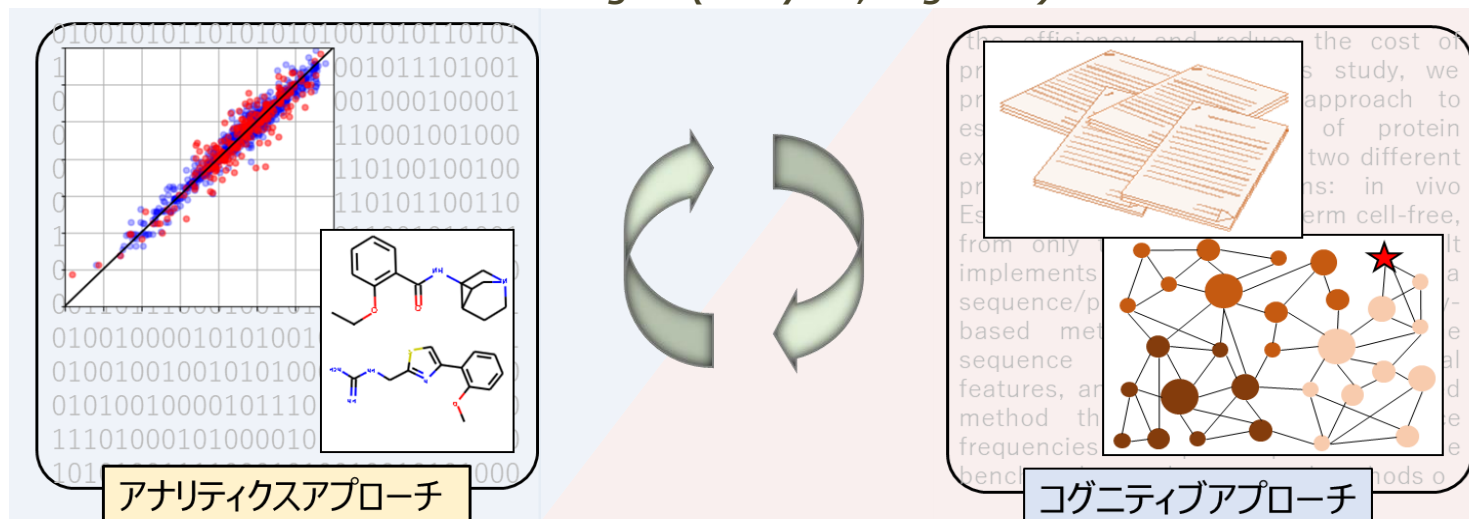
早期に数十億円規模のビジネスを達成
(年間使用料 × 顧客数)



“ NAGASE MI Platform ”

周辺サービスを包括する開発Platformを提供し、お客様の価値創造に貢献します。

Core Engine (Analytics, Cognitive)

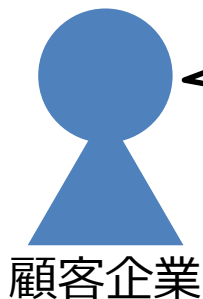


アナリティクスアプローチ

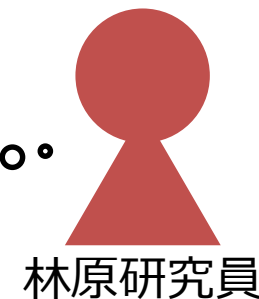
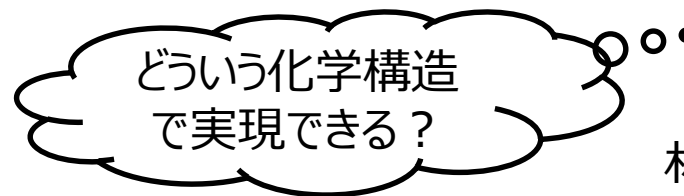
コグニティブアプローチ

Analytics (アナリティクス)	Approach	Cognitive (コグニティブ)
低分子構造と物性値	Input	論文、技術資料などの文章
数理計算、機械学習	Method	言語処理、データ構造化
化学構造式	Output	新しい知識

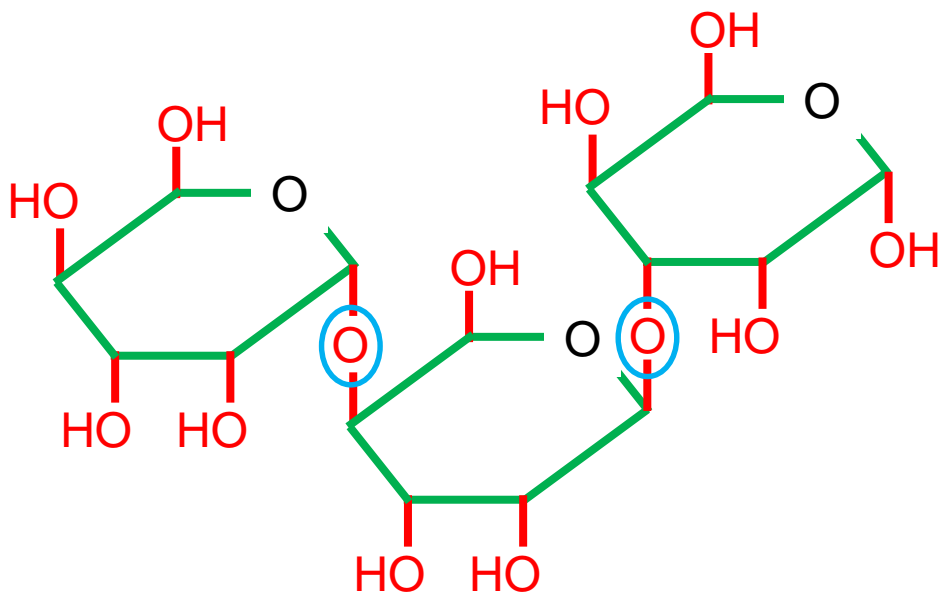
日常のシーン：林原の課題



〇〇な性質を持った糖質が欲しい



糖質は構造のバリエーションが多い(理論値で100億通り以上)ため、特定の物性値を有する糖質をピンポイントで探してくることは非常に難しい。



糖質の構造例 (三糖)

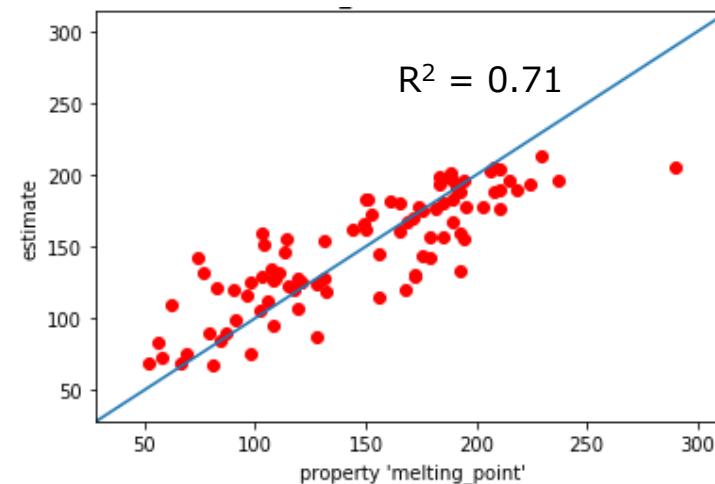
糖質の構造の種類

- OH基の上下の向き
 $2^5 \times 2^5 \times 2^5 = 2^{15}$
- 骨格の種類
1つの環につき最低8種類
3つの環では、 8^3
- 環同士の結合位置
OH基5箇所 \times 5箇所 \times 5箇所 = 5^3

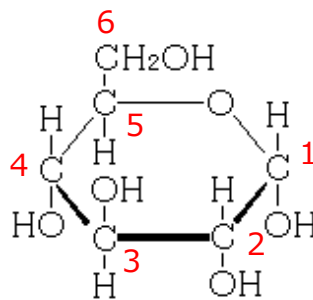
構造のバリエーション： $2^{15} \times 8^3 \times 5^3 = 100$ 億通り以上

データセット

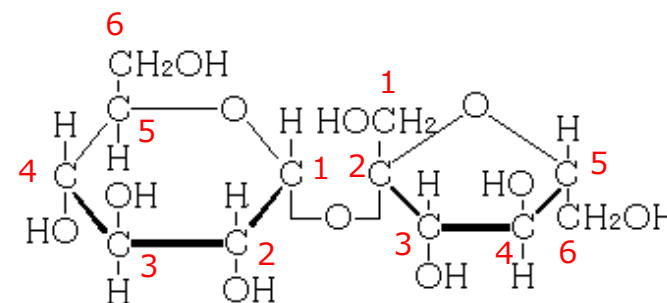
- 153データ（単糖、2糖、3糖）
- 物性値：融点



糖質の基本骨格

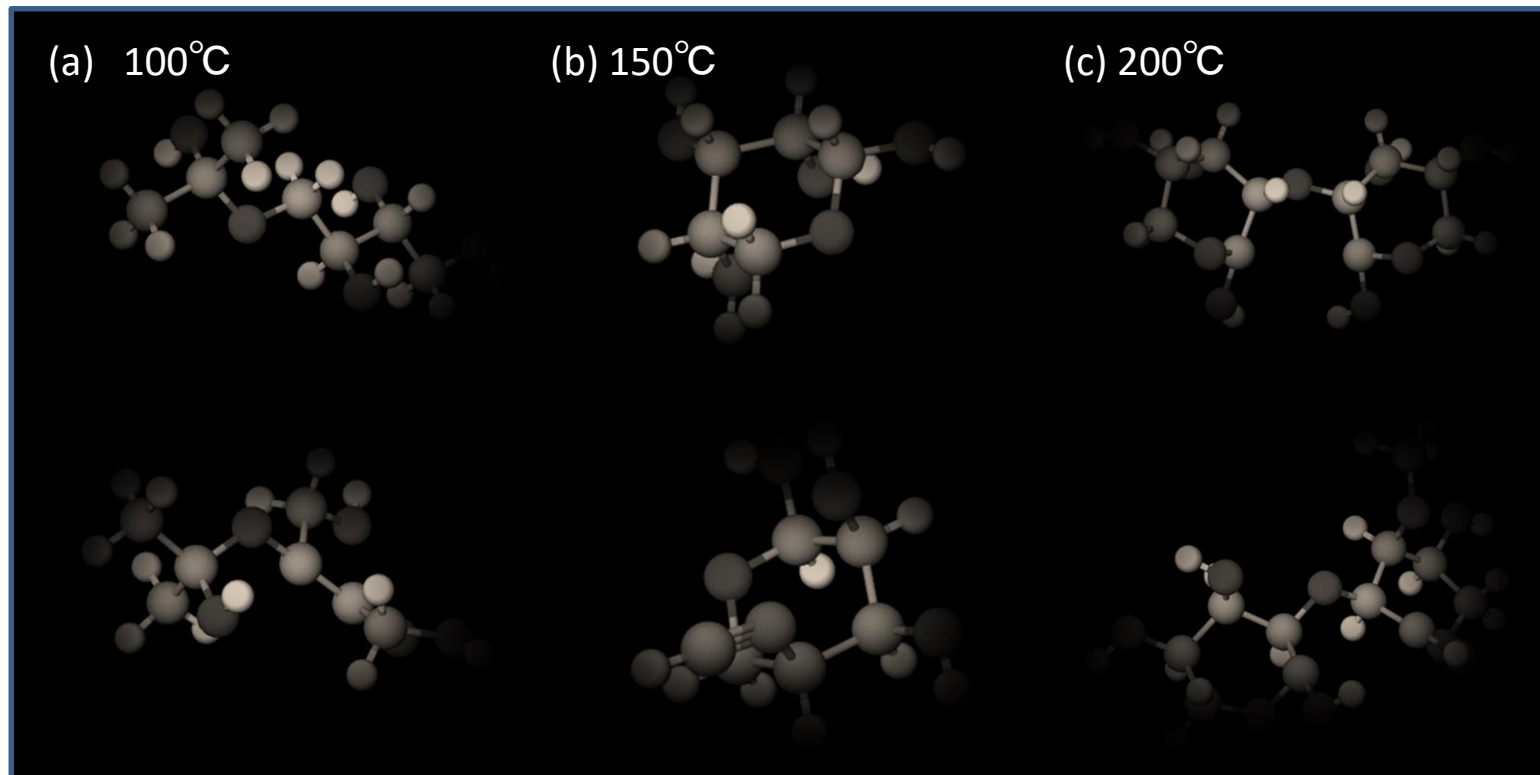


グルコース



スクロース

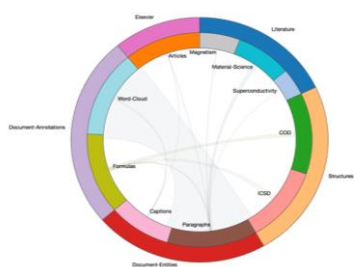
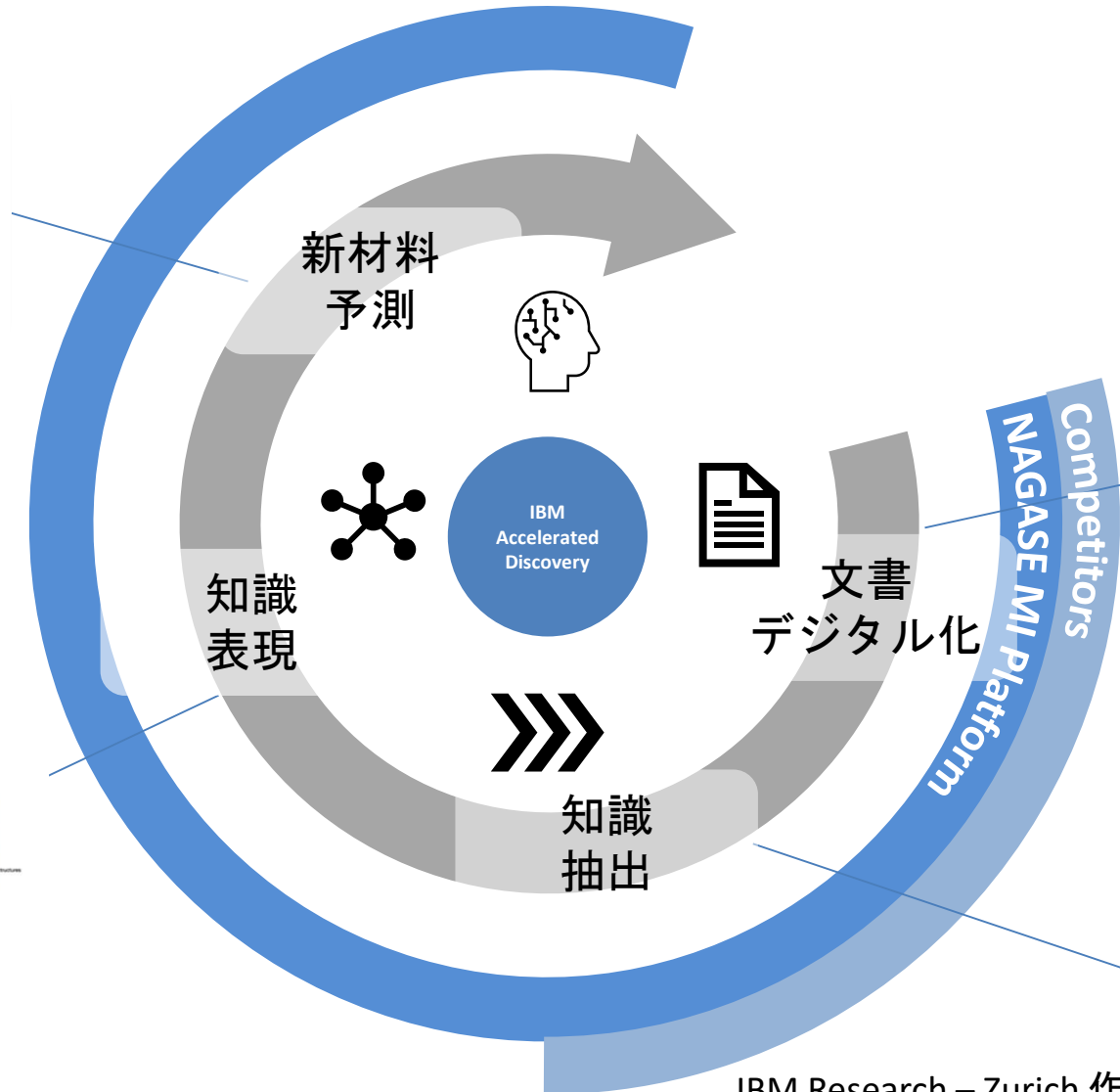
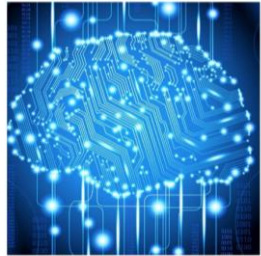
アナリティクスの出力



アナリティクスで発見できる糖質の構造 10個/日 (優秀な研究員の30倍のスピード)

コグニティブ・アプローチの特徴

ワールドクラスのAI：最先端技術によるナレッジから推論まで

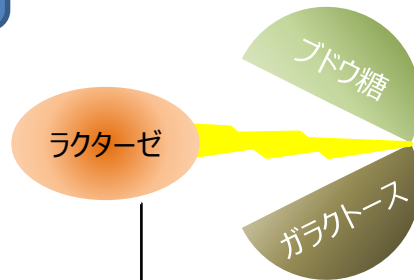


IBM Research – Zurich 作成、IBM Research-Tokyo 日本語訳

A I 上に作成された酵素の知識から、ラクトースに作用する酵素の探索できるか。

「ラクトース（乳糖）」は、牛乳や乳製品に広く含まれている二糖類です。

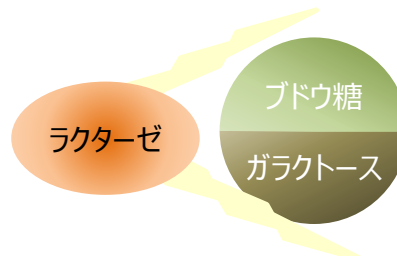
ゴロゴロしない人



ゴロゴロする人

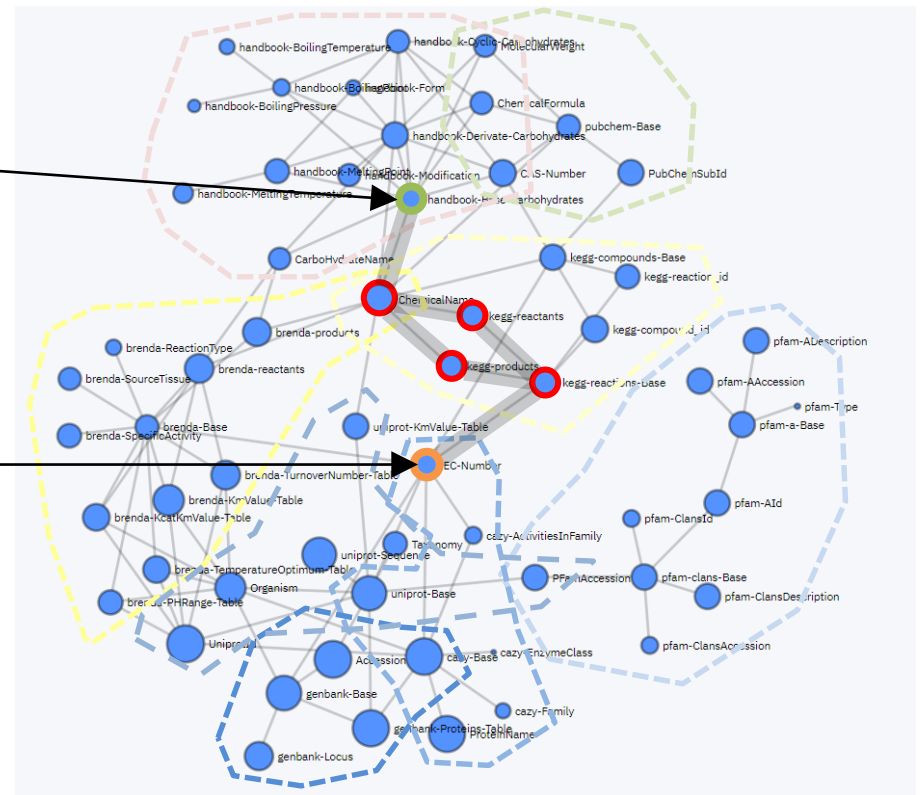


お腹ゴロゴロの原因



働きが弱い

酵素のナレッジグラフ



1冊の書籍、7つの公共DBのデータが格納されています。
11,000,000 件以上のデータが格納されています。

ラクトースに作用する酵素を探索



Expasy
 専門家が酵素DB
 を検索
 ※ KGにExpasyは含まれない

酵素

○ ←	新しい知識の発見		ラクトースの還元末端をケトン化する酵素 (1.1.99.13)
○		○	ラクトースを合成する酵素 (2.4.1.22)
○		○	ラクトースをリン酸化する酵素 (2.7.1.207)
○ ←			ラクトースを分解する酵素 (3.2.1.23)
○		○	ラクトースを分解する酵素 (3.2.1.108)
○ ←			オリゴ糖の非還元末端を加水分解する酵素 (3.2.1.140)

ラクターゼ



2020年11月18日
長瀬産業株式会社

新材料探索プラットフォーム「TABRASA (タブラサ)」の SaaS サービス提供を開始 ～IBM と共同開発したマテリアルズ・インフォマティクス (MI) 知識を体系化しデータを価値に 研究開発の DX を通じたイノベーションを加速～

- 化学系専門商社の長瀬産業と IBM が共同で、クラウド型 (SaaS) のマテリアルズ・インフォマティクス (MI) を開発。
- MI の主流であるアナリティクスのみならず、コグニティブを搭載した業界初の2つの異なるアプローチで新素材をより効率的に探索するのが特徴。
- NAGASE グループの顧客ネットワークを活用し、幅広い業界に展開。

TABRASA は、AI に機械学習させた物質の分子構造や物性値データから新素材の化学構造式を導く「アナリティクス・アプローチ」に加え、「コグニティブ・アプローチ」の2つの異なるエンジンで素材探索できるのが強み (※1) であり、いずれのアプローチも IBM リサーチのマテリアルズ・デザイン技術によるエンジンが使われています。「コグニティブ・アプローチ」は、ユーザーの基盤技術や特許技術、研究成果や論文データを、体系化した知識として蓄積します。一般的に論文やビジネス文書は、情報に規則性がない非構造化データとよばれ、このままではデータとして処理・分析することができません。TABRASA のコグニティブ・アプローチは、データを構造化し内容を的確に理解する自然言語処理の精度に強みがあり、蓄積された膨大な知識に基づく固定観念や先入観にとらわれない合成方法等の提案が期待されます。カスタマイズ性が高いため、知識をユーザーの分野や目的に応じて体系化でき、また入力データを増やすことが提案の質の向上につながることから、使い方次第で研究現場を強力にサポートするソリューションとして育てていくことができます。



TABRASA



Tabula rasaとはラテン語で「何も刻まれていない石板」という意です。

何も刻まれていない石板に文字を刻むように、お客様の豊富な知識を構造化し、蓄積し、活用することで新たな価値を生み出すお手伝いをしたいという思いからTABRASAと名付けました。

下記URLをクリックください。

https://www.youtube.com/watch?v=i_jlfMO_ipw

長瀬産業は、常に未来の声を聴き、
TABRASAの提供を通じて、
お客様のビジネスの成功や
イノベーションに貢献して参ります。

Customer Success !!

Powered by



TABRASA

TABRASA に関してのお問合せは、こちらのサイトから
 お願い致します。

<https://tabrasa.jp/>



(参考資料)セグメント別概況

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	20/03期		21/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	807	1,577	655	81%	1,379	87%
	海外	288	558	238	83%	473	85%
	連結調整	▲223	▲442	▲191	-	▲427	-
	合計	872	1,693	702	80%	1,425	84%
営業利益	国内	20	40	16	80%	33	83%
	海外	8	14	5	59%	10	73%
	連結調整	▲0	▲1	▲1	-	▲1	-
	合計	28	53	20	72%	42	78%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん及び技術資産等の償却含む)

2021年3月期 第2四半期実績

売上高

702億円(80%)

- ◆機能化学品事業は、自動車生産台数の減少等により、塗料原料およびウレタン原料の売上が減少し、事業全体として減収
- ◆スペシャリティケミカル事業は、TV/モニター需要の高まり等によりフィルタービジネスは好調に推移したものの、自動車生産台数の減少等により、加工油剤原料や樹脂原料の売上が減少し、事業全体として減収

営業利益

20億円(72%)

- ◆減収により、減益

2021年3月期 通期見通し

- ◇下期、自動車生産台数の回復等により、塗料・ウレタン原料や加工油剤原料等の売上が増加し、上期比増収見通し
- ◇通期では新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、減収減益見通し

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	20/03期		21/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	891	1,749	717	80%	1,485	85%
	海外	863	1,653	819	95%	1,571	95%
	連結調整	▲378	▲731	▲293	-	▲646	-
	合計	1,377	2,670	1,243	90%	2,410	90%
営業利益	国内	28	54	17	63%	27	50%
	海外	17	30	18	105%	31	103%
	連結調整	▲1	1	▲1	-	▲4	-
	合計	44	85	34	78%	54	63%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん及び技術資産等の償却含む)

2021年3月期 第2四半期実績

売上高

1,243億円(90%)

- ◆カラー&プロセッシング事業は、国内での顔料・添加剤、情報印刷関連材料、工業用・包装材料用の合成樹脂および導電材料の売上が減少したこと等により、事業全体として減収
- ◆ポリマーグローバルアカウント事業は、グレーターチャイナにおける合成樹脂の販売は微減だったものの、国内およびアセアンにおける売上が減少し、事業全体として減収

営業利益

34億円(78%)

- ◆減収に加え、情報印刷関連材料ビジネスの市況下落による収益性悪化の影響等もあり、減益

2021年3月期 通期見通し

- ◇下期、顔料および合成樹脂の売上は徐々に回復する見通しであるものの、新型コロナウイルスの影響による情報印刷関連材料が需要減少等の影響により、売上が減少し、上期比減収見通し。
- ◇通期で、減収減益見通し

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	20/03期		21/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	583	1,174	557	96%	1,126	96%
	海外	325	661	338	104%	615	93%
	連結調整	▲336	▲684	▲351	-	▲716	-
	合計	573	1,151	544	95%	1,025	89%
営業利益	国内	20	39	22	110%	42	107%
	海外	9	17	14	147%	23	133%
	連結調整	+0	▲3	▲1	-	▲3	-
	合計	31	53	35	113%	62	115%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん及び技術資産等の償却含む)

2021年3月期 第2四半期実績

売上高

544億円(95%)

◆半導体中間工程用研磨関連やノートブック等向け部材の販売が好調に推移したものの、フトリソ材料、変性エポキシ樹脂および装置関連の売上が減少し、事業全体として減収

営業利益

35億円(113%)

◆減収となるものの、一部製造子会社の収益性の改善等により、増益

2021年3月期 通期見通し

◇下期、変性エポキシ樹脂は車載向けが回復し、モバイル機器電子部品向けが引き続き堅調に推移し上期比増収見込み。
一方、ノートブック向け等のビジネスは、ディスプレイ関連市場の先行き不透明な状況に鑑み、上期比減収を見込み、全体で上期比減収見通し。

◇通期で、減収となるものの、一部製造子会社における損益改善の影響等により、増益となる見通し

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	20/03期		21/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	387	764	251	65%	611	80%
	海外	384	723	291	76%	627	87%
	連結調整	▲116	▲227	▲82	-	▲218	-
	合計	656	1,260	460	70%	1,020	81%
営業利益	国内	5	10	▲1	-	3	37%
	海外	5	8	2	46%	8	102%
	連結調整	+0	+0	+0	-	+0	-
	合計	11	18	1	10%	11	58%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん及び技術資産等の償却含む)

2021年3月期 第2四半期実績

売上高

460億円(70%)

◆モビリティソリューションズ事業は、グレーターチャイナを除く全ての地域における自動車生産台数の減少等により、グレーターチャイナを除く全ての地域の樹脂ビジネスが減少し、減収

営業利益

1億円(10%)

◆減収により、減益

2021年3月期 通期見通し

◇下期、自動車生産台数が回復し、国内外における樹脂販売が上期比増収となり、またカーエレクトロニクス関連の素材・部品等の販売が新規事業立ち上げ等もあり好調に推移し、上期比増収見通し

◇通期では、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、減収減益見通し

<所在地別売上高・営業利益>

(億円)

	20/03期		21/03期				
	中間	通期	中間	前年同期比	通期見通し	前期比	
売上高	国内	508	1,044	495	97%	1,002	96%
	海外	73	468	512	695%	986	210%
	連結調整	▲145	▲298	▲148	-	▲333	-
	合計	437	1,215	859	196%	1,655	136%
営業利益	国内	32	67	30	95%	58	86%
	海外	3	19	28	721%	53	271%
	連結調整	▲16	▲47	▲29	-	▲55	-
	合計	19	39	30	152%	56	141%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。(のれん及び技術資産等の償却含む)

2021年3月期 第2四半期実績

売上高

859億円(196%)

◆トレハ®等の食品素材(Prinovaグループ除く)やAA2G®等の香料品関連素材の売上は減少したものの、医薬品原料・中間体・医用材料および衛生商品関連の売上が増加し、更にPrinovaグループの売上が加わったこと等により、増収

営業利益

30億円(152%)

◆増収により、増益

2021年3月期 通期見通し

◇下期、Prinovaは引き続き堅調に推移し、上期同等の売上となり、また医薬品原料・中間体・医用材料の売上が堅調に推移する見込み。一方、新型コロナウイルス感染症の影響が継続し、インバウンド需要が回復しないと想定しており、トレハ®・AA2G®等の林原製品の売上が上期比減収となり、全体として上期比減収見通し

◇通期では、Prinova連結の影響が大きく、増収増益見通し

本日の説明ならびに本資料の内容につき、ご質問等がございましたら、下記までお問合せください。

お問い合わせ先：

経営企画本部 企画管理室 商事法務・IRチーム

電話番号：03-3665-3028

お問い合わせフォーム：<https://www.nagase.co.jp/contact/>

※上記URLをクリックいただき、「IR(投資家情報)」から必要事項記載の上、ご連絡ください。



Bringing it all together

<https://www.nagase.co.jp/>

当プレゼンテーション資料には、2020年11月26日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。